

ト爲リ而シテ番外モ現修正ヲ完備ナリト認識セルヲ以テ此請求ヲ爲セシナラン是レ實ニ本官等ノ欣悦スル所トス但シ二十二番モ云フ如ク全部付託ノ修正ニ非サルヲ以テ前後ヲ通シテ考察スレハ猶ホ遺漏セル無キヲ保セス即チ第八條ノ末文ノ如キ第十四條ノ削除ノ如キ更ニ考案ヲ下サンコトヲ要ス此等ハ定規ノ日數ヲ得テ審カニ講究セサル可ラス故ニ敢テ番外ノ請求ヲ非認セサルモ亦之ニ同意セサルナリ

○二十八番 伊丹重賢 本官モ四十三番ト同感ナリ此議案ハ已ニ再度ノ修正ヲ經タルモ共ニ全體ヲ通シテ修正シタルニ非サレハ猶ホ望慮スル所アリ故ニ定規ノ日數ヲ隔テ、開會センコトヲ望ム

○議長 番外ノ請求ヲ衆議ニ問フ之ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ定規ノ日數ヲ間テ、開會スルニ決シ來ルニ十七日例刻ヨリ第三讀會ヲ開カン本日ハ散會セヨ
午前第十一時三十五分開場

元老院會議筆記 明治十七年十一月廿八日

○第四百五十二號議案 西洋形船舶檢査規則ノ儀 第三讀會

議長 東久世 通禧

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 一番 | 上杉 茂憲 |
| 二番 | 田邊 太一 |
| 八番 | 神田 孝平 |
| 九番 | 鍋島 幹 |
| 十二番 | 河田 景與 |
| 十三番 | 箕作 麟祥 |
| 十五番 | 岩村 定高 |

- 十七番 長松 幹
- 十八番 西 周
- 二十番 林 友幸
- 二十一番 榎村 正直
- 二十二番 三浦 安
- 二十三番 大鳥 圭介
- 二十四番 長岡 護美
- 二十五番 大久保 一翁
- 二十六番 本田 親雄
- 二十七番 渡邊 清
- 二十八番 伊丹 重賢

- 二十九番 細川潤次郎
- 三十番 津田 眞道
- 三十三番 宮本 小一
- 三十四番 神山 郡廉
- 三十五番 楫取 素彦
- 四十一番 楠本 正隆
- 四十二番 西村 貞陽
- 四十三番 柴原 和
- 四十四番 福原 實

内閣委員 一番外 参事院議官 安場 保和
 同 二番外 参事院議官補 水野 遵

午前第九時五十分開場

○議長 本日ハ第四百五十二號議案ノ第三讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

西洋形船舶検査規則別冊ノ通制定シ明治 年 月 日ヨリ

施行ス

右奉 勅旨布告候事

○三十二番 三浦 安 布告案ニハ素ヨリ異論ナシ然レトモ各條ニハ尙ホ

修正ス可キ者アリ但此議案ハ再修正ヲ經テ本官ハ前後共ニ修正委員ニ當リ同僚諸君ト與ニ審議修正セシヲ以テ第十六條ノ如キハ一層ニ精密ナルヲ致セリ然リ而シテ本案第十六條ハ原案第八條ノ旨

意ヲ補足セシ者ナルヲ以テ本案第八條ニ於テ少ク文字ヲ添ヘサレハ罰則ト適合セサルヲ覺フ是レ單ニ文字ヲ添ルノミナラス全條文ノ意義ニ於テモ穩當ヲ欠ケル有リ今其意見ヲ略陳センニ元來第八條ハ第七條ノ旨意ヲ承タル者ニシテ新造ノ船舶ノ處分ヲモ管理ス若シ第十五條ノ「臨檢云々」ヲ考察スレハ第八條ニ反繳シ得ヘシト雖モ第八條ニ於テ尙ホ少ク文字ヲ添ヘサレハ決シテ完全ナリト言フヲ得ス又第一條ニ受有スヘシノ五字ヲ插入スルヲ可トス更ニ餘意ヲ說シニ第八條ニ於テ航行ニ不適當ト認ムルトキハ有効期限内ト雖モ證書ヲ收銷スルコトヲ示サハ第十六條ノ罰例ト照應シテ意義始メテ完全ナラン即チ第八條ヲ修正シテ曰ハン航行ニ不適當ト認ムルトキハ新造船ハ證書ヲ交付セス有効期限内ノ者ハ證書ヲ收

銷スト然ルトキハ第十六條ニ「検査官吏ノ命ニ違背シ」云云ノ語句ヲ掲ケサルモ冒頭ノ「検査ヲ受ケスシテ航行シ」云云ノ語句ノミニシテ其意義已ニ周足ス然ルヲ再修正案ノ如クスレハ罰則ハ詳審ナルモ其基本タル第八條ハ疎漏ナルヲ免レス本官ハ再修正委員ナレハ其際之ヲ修正スヘキニ今日第三讀會ニ於テ故サラニ此說ヲ提出スルハ各官ノ怪訝ヲ免レサル可キモ各官ノ知悉スル如ク本案ノ修正ハ之ヲ始ニシテハ第四條以下ニ係リ之ヲ終ニシテハ第十六條以下ニ係ルヲ以テ全部ヲ通考スルヲ得ス故ニ其修正タル頭尾ノ完整セサル憾ミ有リ再修正案ハ稍ヤ緻密ナリト云フト雖モ原案ニ比スレハ寧ロ繁雜ニ失セリト云ハントス是レ本官ノ新タニ此說ヲ提出スル所以ナリ本官ノ希望スル所ハ更ニ修正委員ヲ置キ全部ヲ通シ

- テ修正スルニ在リ或ハ再三修正委員ヲ置クハ無用ナリト云ハンモ
- 原案ハ本ト精密ヲ欠ケルヲ以テ修正ヲ加ヘシニ今ハ却テ繁雜ヲ致スニ至レリ故ニ本官ハ再三修正委員ヲ置クヲ可トス以上ノ理由ナルヲ以テ特ニ全部付託修正委員ヲ置クコトヲ建議ス
- 八番 神田 孝平 賛成
- 十八番 西 周 賛成
- 議長 二十二番ノ特別建議ノ決ヲ取ン之ニ同意スル者ハ起立セヨ
- 議長 起立者九人
- 議長 少數ナルヲ以テ二十二番ノ建議ハ消滅ス
- 議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ
- 議員 起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山 茂 朗讀

○西洋形船舶検査規則

第一條 西洋形船舶海軍艦船ヲ除クハ此規則ニ遵ヒ検査ヲ受クヘシ但登

簿船免狀ヲ受有セサルスルニ及ハ風帆船ハ此限ニアラス

○二十二番 三浦 安 只今特別建議ニ略陳セシ如ク本條ノ「此規則ニ遵

ヒ検査ヲ受クヘシ」ヲ此規則ニ遵ヒ検査ヲ受ケ検査證書ヲ受有ス

ヘシト修正セン願フニ検査證書ハ本案ノ主眼ナレハ第一條ニ於テ

此事ヲ釐定セサル可ラサルナリ

○議長 二十二番ノ發議ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第二條 船舶検査所設置ノ場所ハ農商務卿之ヲ定ム

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第三條 検査所所在ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其最寄検査所

ニ願出ヘシ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○ 議員起立

○ 議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第四條 検査所未設ノ地方ヲ航行スル船舶ノ検査ハ其船籍アル地

方廳ヲ經テ農商務省ニ願出ヘシ其検査期日及ヒ場所ハ前以テ農

商務卿之ヲ告示ス

○ 議長 本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第五條 登簿船免狀ヲ受有セサル汽船ノ検査ハ其船籍アル地方廳

ニ願出ヘシ

○ 議長 本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第六條 検査官吏ハ農商務卿之ヲ命ス但第五條ノ汽船ニ係ル検査

官吏ハ府知事縣令之ヲ命ス

○ 議長 本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第七條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ適當ト認ムルトキハ

農商務省ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル検査證書ヲ交付ス但地方廳

ノ検査ニ係ル者ハ其廳ヨリ之ヲ交付ス

一 番號

一 船名

一 船主氏名

- 一 定繫場名
- 一 登簿噸數 必要ノ
- 一 端船其他所屬品 シ得ヘキ場所ノ定限
- 一 航行定限ノ場所
- 一 證書有効期限
- 一 汽船ニハ左ノ事項ヲ加フヘシ
- 一 公稱馬力
- 一 汽機ノ種類
- 一 汽罐ノ種類
- 一 最大ノ汽壓
- 一 旅客定員

○二十九番 細川潤次郎 瑣細ノ修正ヲ加ヘン本條末項ノ「最大ノ汽壓」ノ

「ノ」ノ字ヲ削去スル是ナリ元來「ノ」ノ字ハ實名詞ト實名詞トヲ連屬スルトキ兩箇ノ間ニ置クヲ慣例ト爲スニ似タリ然ルニ本項ノ如キハ「最大」ノ二字ハ形容字ニシテ「汽壓」ノ二字ハ實名詞ナレハ「ノ」ノ字ハ不要ナリ且下付原案第十五條ノ「最大汽壓」云云ニハ「ノ」ノ字ヲ下サス故ニ文章ヲ整頓スル爲メニ「ノ」ノ一字ヲ削去セントス

○二十三番 大島圭介 賛成

○二十七番 渡邊清 賛成

○八番 神田孝平 賛成

○十三番 箕作麟祥 賛成

○九番 鍋島幹 賛成

○四十三番 柴原和 賛成

○議長 二十九番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題トナス

○議長 發議ナクハ決ヲ取ン二十九番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セ

○ヨ

○二十番 總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ二十九番ノ修正説ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第八條 検査官吏ニ於テ船舶ヲ検査シ航行ニ不適當ト認ムルトキ

ハ其修理ヲ命シ或ハ出航ヲ差止ムヘシルコトアル

○二十二番 三浦安 本條ハ船舶ノ出航ヲ停止スルモ證書ヲ收銷セサル

ヲ以テ其船舶ハ猶ホ航行ニ障碍セサル者ノ如シ蓋シ本條ノ旨意ハ

航行ニ不適當ナルモ直ニ證書ヲ沒收セス其修理スルヲ俟テ再ヒ證書ヲ活用セシムルニ在ラント思考スレトモ是レ甚タ姑息法ナリ本官ノ見ル所ヲ以テスレハ一旦證書ヲ收銷シ其修理ヲ加ヘタル以上ハ新タニ之ヲ交付スルヲ當然ト爲ス此法案ハ新設ニ係ルヲ以テノ故ナルカ其處理甚タ寛大ナリト雖モ本條ノ如クナレハ或ハ爲メニ弊害ヲ生セン故ニ本條ノ「不適當ト認ムルトキハ」ノ下ヲ「検査證書ヲ交付セス検査證書有効期限内ノ者ハ其證書ヲ收銷スヘシト爲シ其修理」云々以下ヲ削除セン即チ不適當ト認ムレハ新タニ検査ヲ受ルマテ證書ヲ交付セス有効期限内ニ係レハ之ヲ收銷スルナリ

○議長 二十二番ノ發議ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○十三番 笑作麟祥 二十二番ノ説ハ一理ナキニ非サレトモ證書ヲ無効ト

爲サント云フハ原案ノ精神ニ背馳シ且其處理ニモ煩勞ナラン故ニ
 賛成スルヲ得ス本官ハ別ニ本條ヲ修正シ「差止ム」ノ下ナル朱書ノ
 「ルコトアル」ノ五字ヲ削除スル是ナリ元來原案ノ旨意ハ検査官吏
 船舶ヲ検査シ航行ニ不適當ト認ルトキハ修理ヲ命スルカ出航ヲ差
 止ムルカノ二者ノ其一ヲ施行スルヲ以テ職分ト爲ス然ルニ朱書ノ
 如クナレハ或ハ出航ヲ差止ムルモ可ナリトスル意義ト爲リ修理ヲ
 命スルハ正則ニシテ出航ヲ差止ムルハ附則タルニ似タリ原案ノ意
 義ヲ考フルニ二者共ニ正則ニシテ其緊要缺ク可ラサルハ決シテ彼
 此異ナル無キナリ元來検査官吏ノ此二者ノ其一ヲ斷行スルハ當然
 ノ職權ナルニ朱書ノ如クスレハ文意曖昧ニシテ處理ニ際シ或ハ緩
 漫ニ失スル無キヲ保セス況ヤ本條ハ第十六條ト相ヒ關連スル者ニ

○シテ第十六條ニハ其罰則ヲ設ケ命ニ背キテ修理セサル事犯ト差止
 ノ命ニ違フ事犯トヲ並立セシメタレハ此條ニ於テモ必ス並立セシ
 メサル可ラス但シ第十五條ニハ「臨檢スルコトアルヘシ」ト言フモ
 彼ト此トハ其事理ヲ異ニス此條ノ如キハ必ス其主意ヲ鞏固ナラシ
 ムルヲ要ス

○四十三番柴原和十三番ヲ賛成ス此「ルコトアル」ノ五字ハ前キニ第

十六條以下ヲ再修正ニ付セシ時ニ於テ本官ノ添加セシ所ナリ第二
 讀會ニハ異議ナク可決セシモ只今十三番ノ說ヲ聽キ益其不可ナル
 ヲ知ル然レトモ本官ハ漫然ニ此五字ヲ加ヘタルニ非ス即チ下付原
 案第十六條ニ船舶ヲ修理セサル事犯ノ罰ヲ輕クセルカ故ニ此罰則
 ニ比例ヲ取り以テ此ノ如ク修正セシナリ元來船舶ヲ修理セサルノ

ミナレハ固ヨリ罰セス修理セスシテ出航スレハ罰ス可シトスル旨
 意ヨリシテ検査官吏其修理ヲ命シ或ハ出航ヲ差止ルコト有リ故ニ
 再修正案ニハ第六條ニ於テ「修理セスシテ出航シ若クハ差止ノ命
 ニ違背シテ出航シタル者」云云ト掲ケ以テ其罰ヲ重クス此ノ如ク
 第八條ト第十六條トヲ照應セシメテ罰則ヲ改正セシ以上ハ「ルコ
 トアル」ノ五字ハ固ヨリ削去スルヲ當然ナリトス再修正ヲ加フル
 時ニ方リ吾心ニ之ヲ知ルト雖モ第十六條以下ヲ付託セラレタルヲ
 以テ前條ニ溯及スル能ハス十三番ノ修正ハ本官モ固ヨリ同感ナリ
 各官モ之ニ同意センコトヲ望ム

○一番 上杉茂憲

賛成

○二十二番 三浦安茂

賛成

○二十八番 伊丹重賢

賛成

○二十番 林友幸

賛成

○議長 十三番ノ修正説ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○議長 十三番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ十三番ノ修正説ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

○第九條 検査證書ノ效力ハ其船ノ現狀ニ依リ六箇月十二箇月ニ區
 別ス

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第十條 検査證書ハ船内最モ見易キ場所ヘ掲ケ置クヘシ

○議長 本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十一條 検査證書ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ其理由ヲ詳記シ再渡ヲ願出ヘシ

○議長 本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十二條 番號船名船主及ヒ定繫場ヲ變更シタルトキハ農商務省

○又ハ地方廳ニ届出ヘシ

○議長 本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十二條 船体若クハ汽機汽罐其他要部ノ修理若クハ變更ヲナシ

タルトキハ更ニ検査ヲ受クヘシ

○八番 神田孝平 本官ハ此條ヲ削除セント欲ス元來本案ノ立意ハ專ラ旅

客ヲ保護スルヲ以テ主ト爲スニ似タリ然ルニ要部ニ損傷ヲ生シタ

ルトキニ於テ速ニ修理ヲ加ヘシメサレハ何ヲ以テ旅客ヲ保護スル

ヲ得ン顧フニ船主ハ往往射利ニ急ニシテ船舶ノ安危ヲ忽ニスルヲ

免レス然ルニ此條ノ如ク唯其修理若クハ變更ヲ爲シタル場合ノミ

検査ヲ施シ而シテ異狀ヲ生シタル場合ニハ検査ヲ要セスト言フト

キハ船主ハ務メテ修理費用ヲ省減スル爲メニ要部ノ損傷ヲモ其修

○議長 他ニ發議ナクンハ取決セン本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ
起立者二十三人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決ス

○八番 神田孝平 只今第十三條ヲ削除スル動議ヲ提出セシモ不幸ニシテ消滅セリ故ヲ以テ更ニ前會ニ削除シタル第十四條即チ「船体若クハ汽機汽罐其他要部ニ異狀ヲ生シタルトキハ修理變更ヲ爲サスト雖モ更ニ検査ヲ受クヘシ」ノ四十五字ヲ復掲センヲ欲ス其理由ハ前キ既ニ説述セシヲ以テ復タ贅セス

○二十七番 渡邊清 賛成ス本官ハ初ヨリ第十三條ヲ削除スルヲ欲セス何トナレハ第十三條ニハ修理及ヒ變更ノコトヲ言ヒ若シ之ヲ檢セサルヤ甚タ危険ナルヲ覺フレハナリ實ニ八番ノ云フ如ク修理セサ

○二番 田邊太一 賛成

○議長 八番ノ動議ハ定數ノ賛成者ナキヲ以テ消滅ス

○議長 他ニ發議ナクンハ取決セン本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決ス

○八番 神田孝平 只今第十三條ヲ削除スル動議ヲ提出セシモ不幸ニシテ消滅セリ故ヲ以テ更ニ前會ニ削除シタル第十四條即チ「船体若クハ汽機汽罐其他要部ニ異狀ヲ生シタルトキハ修理變更ヲ爲サスト雖モ更ニ検査ヲ受クヘシ」ノ四十五字ヲ復掲センヲ欲ス其理由ハ前キ既ニ説述セシヲ以テ復タ贅セス

○二十七番 渡邊清 賛成ス本官ハ初ヨリ第十三條ヲ削除スルヲ欲セス

何トナレハ第十三條ニハ修理及ヒ變更ノコトヲ言ヒ若シ之ヲ檢セサルヤ甚タ危険ナルヲ覺フレハナリ實ニ八番ノ云フ如ク修理セサ

レハ検査ヲ要セスト爲スハ本案ノ旨意ニ背反セリト思考ス然ルヲ
若シ一旦検査ヲ受レハ有効期限内ハ検査ヲ要セスト爲スヤ船主ノ
怠惰ヲ助ケテ危害ヲ乗客ニ及サントス故ニ必ス朱書第十四條ヲ回
復シ以テ第十三條ノ缺漏ヲ補救セサル可ラス

○二十三番 大鳥圭介 賛成ス前キニ八番ハ第十三條ヲ削除セント發議セ

リ是レ第十四條ヲ存セサル以上ハ第十三條ノ効用ノ甚々微薄ナル
ヲ以テナリ要スルニ修理セシ時ノニ検査ヲ施シ證書有効期限内ハ
○検査ヲ要セスト云フハ事理其宜キヲ得ス故ニ第十三條ヲ削除スル
○説ハ固トニ一理アリト雖モ本官ハ寧口朱書第十四條ヲ回復スルヲ
是認スルナリ

○二番 田邊太一 賛成

○四十三番 柴原和 賛成ス第十四條ヲ加ヘタルハ内閣原案ノ缺漏ヲ補

救スル者ナレハナリ

○三十四番 神山郡廉 賛成

○二十二番 三浦安 賛成

○議長 八番ノ朱書第十四條ヲ回復スル動議ハ定數ノ賛成者アルヲ
以テ問題ト爲ス

○九番 鍋島幹 朱書第十四條ヲ回復スル動議ハ問題ト爲リシモ本官ハ

之ニ同意セス抑モ第十四條ヲ削除ス可キ理由ハ前會ニ反覆辨明セ
シヲ以テ復タ贅セサレトモ八番ノ言論中本官カ前日以来未タ聞カ
サル異説アルヲ以テ聊カ辨駁セサル可ラス八番ハ第十四條ヲ存セ
サルトキハ船舶ニ損處ヲ生シタルモ之カ修理ヲ怠ル有ラント云フ

モ決シテ然ク憂慮スルヲ要セス何トナレハ第十五條ニ於テ船主ノ
 怠忽ヲ防制スルノ設ケ有レハナリ加之方今ノ情勢ヲ考察スルモ三
 菱會社及ヒ運輸會社ノ如キ小利ヲ逐フ爲メニ船舶ノ毀損ニ注意セ
 ス爲メニ旅客ニ危害ヲ及ホス等ノ虞懼ハ決シテ之レ無シ只憂フル
 所ハ大阪以西ノ内海ヲ航行スル小汽船ニ在ルノミ然レトモ此等ハ
 嚴ニ第十五條ノ制規ヲ施行セハ充分ニ之ヲ救濟スルヲ得ヘク其他
 ハ決シテ顧慮ヲ要セス故ニ第十四條ヲ回復シテ船主ニ煩勞ヲ與フ
 ルヨリハ却テ之ヲ削除シテ第十五條ノ裁制ニ委スルニ如カス況ヤ
 創法ノ日ニ於テハ寧ロ其検査ノ寛大ニ出ルノ可ナルヲヤ
 ○八番神田 孝平 九番ノ說ノ如ク三菱會社等ノ運用スル大汽船ノ如キハ
 船主ノ其毀損ヲ顧慮セサルコトハ希ナル可キモ小汽船ニ至テハ比

比之レ有リ然ルニ不時ノ臨檢ヲ恃ミテ有効期限内ハ検査ヲ要セス
 ト云フハ解ス可ラス關西地方ノ内海ニ於テ小汽船ヲ運用スル甚々
 多ク其船主モ財本素ヨリ薄少ナレハ常ニ航行ヲ休輟スルヲ厭フ故
 ニ其検査ヲ忽セニスルトキハ勢ヒ必ス姑息ニ流レ危害ヲ旅客ニ及
 ホス無キヲ保セス然ルニ此法案ノ如クスルヤ修理スレハ検査ヲ受
 ケサル可ラサルモ修理セサレハ検査ヲ受ルヲ要セス故ヲ以テ船主
 ハ其検査ヲ受ル煩勞ヲ厭フ爲メニ勢ヒ自ラ修理ヲ忽セニスルニ至
 ラン是レ修理ヲ厭フノ情ヲ誘ヒクニ非スシテ何ソ朱書第十四條ハ
 修理スルト否トニ關セス検査ヲ加フル者ニシテ煩勞ハ則チ之レ有
 ンモ本官ハ寧ロ安全ヲ欲スルヨリシテ此條ヲ存セントスルナリ然
 ルニ九番ハ船主ノ困難ヲ致スト駁難スルモ苟モ船主ノ困難ヲ以テ

立論ノ基本ト爲ストキハ本案ノ各條ハ一トシテ船主ニ困難ヲ與ヘサルハ莫シ夫レ已ニ此規則ヲ施行スル以上ハ船主ノ困難ハ已ムヲ得サルノミ要スルニ第十三條ヲ削除スルトキハ第十四條ハ素ヨリ廢棄シテ可ナルモ苟モ第十三條ヲ存置スルトキハ必ス第十四條ヲ回復セサル可ヲサルナリ

○議長 八番ノ第十四條ヲ回復スル動議ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者十人

○議長 少數ナルヲ以テ八番ノ修正説ハ消滅ス

書記官 森山茂 朗讀

第十三條 五 船舶航行^四ニ用^五フヘキ^六目途^七ナキ^八下^九キ又ハ除籍トナリタルトキハ直ニ検査證書ヲ農商務省又ハ地方廳ニ返納スヘシ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第十四條 五 検査證書ノ有効期限内ト雖モ検査官吏ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ臨檢スルコトアルヘシ

○議長 本條ハ可決ト認メ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第十條 六 正常ノ事故ナクシテ検査證書ニ記載セル最大汽壓ヲ超

過シテ航行シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス
船舶ノ航行シ 検査ヲ受ケス又ハ無効ノ検査證書ヲ使用シ又ハ検査證

書ニ記載セル最大汽壓ヲ超過シ或ハ場所ノ定限ヲ越エテ航行シ

又ハ検査官吏ノ命ニ違背シ修理セスシテ出航シ若クハ差止ノ命

ニ違背シテ出航シタル者ハ三十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

○議長 起立者二十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決ス

書記官 森山 茂 朗讀

第十五條 及ヒ 故ナクシテ検査ヲ受ケス又ハ無効ノ検査證書ヲ使用シ

又ハ検査證書ニ記載セル最大汽壓旅客定員ヲ超過シテ航行シ又ハ検査官

吏ノ命ニ違背シテ出航シタル者ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金

ニ處ス

検査證書ニ記載セル旅客定員ヲ超過シ又ハ端船其他

○必要ノ所屬品ヲ具ヘスシテ航行シ又ハ第十三條ヲ犯シタル者ハ

十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

○二十三番 大鳥 圭介 本條ヲ修正セン其修正ハ前會ニ提出セシ者ト同ク

文章ノ位置ヲ轉換スルニ在リ前會ニモ陳述セシ如ク旅客定員ヲ超

過スルト端船其他必要所屬品ヲ具ヘサルトハ其犯狀自ラ輕重ヲ存

ス殊ニ端船ノ如キハ汽船ト風帆船トヲ問ハス必ス之ヲ具ヘサル可

○ラス不幸ニシテ船内ニ火ヲ失スル如キコト有ルニ際シ端船ヲ準備

スル無レハ何ヲ以テ旅客ヲ救助セン是レ旅客定員ヲ超過スルニ比

スレハ其情狀固ヨリ重シ故ニ第六條ノ各項ヲ并列セルニモ「端船」

云云ヲ以テ上位ニ置ケリ此次序ヨリ之ヲ論スルモ本條ノ「旅客」云

云ハ下文ニ綴ルヲ當然ナリトス此理由アルヲ以テ前會ニ動議ヲ提出セシニ不幸ニ消滅シタレトモ本官ハ本案ヲ完全無瑕ノ者ト爲サントスル精神ナルヲ以テ重複ヲ厭ハス前説ヲ再演ス

○二十八番 伊丹重賢 本官モ前會ニ其説ヲ聞キ今又再述ヲ得テ犯狀輕重ノ殊異ナル論旨ヲ領ス其犯狀輕重ノコトハ姑ク置クモ此修正ハ第七條ノ項次ニ適合セルヲ以テ之ヲ賛成ス

○二番 田邊太一 賛成

○二十七番 渡邊清 賛成

○十八番 西周 賛成

○二十二番 三浦安 本官モ犯狀ノ輕重如何ニハ關セサレトモ第七條ノ

項次ハ「端船」云云ヲ上位ニ置ケリ殊ニ下付原案ニハ此罰則ナキヲ

修正ニ於テ加設シタルカ故ニ本條ノ行文ヲ第七條ノ項次ト異ナラシメハ別ニ深意アリテ故サヲニ顛倒セル者ニ似テ甚タ妥穩ナラス此理由アルヲ以テ本官ハ再修正委員ノ一人ナレトモ翻テ賛成セサルヲ得サルナリ

○二十九番 細川潤次郎 賛成

○四十三番 柴原和 本官モ再修正委員ノ一人ナレハ宜ク本案ヲ維持ス

ヘキモ現修正説ニハ同意ヲ表セサルヲ得ス元來本條行文ノ叙次ハ偶然ノ綴屬ニ出テタル者トス本官ノ現修正説ニ左袒セルハ必シモ犯狀ノ輕重ニ關スルニハ非スシテ第七條中ノ項次ニ合スルカ爲メナリ況ヤ其犯狀輕重ノ理由モ亦全ク之レ無キニ非サルヲヤ

○一番 上杉茂憲 賛成ス第二讀會ニ此修正説出テタル時ニハ起立セサリ

○シニ只今詳細ノ説明ヲ聽キ本條ノ行文章ヲ轉換スルノ必要ナルヲ感スレハナリ

○議長 他ニ發議ナクハ取決セン二十三番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十四人

○議長 多數ナルヲ以テ二十三番ノ修正說ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第十九條

検査證書ニ記載セル端船其他必要ノ所屬品ヲ具ヘズシテ航行シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
検査官吏ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ第十條ヲ犯シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十六人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第二十條

検査官吏ノ命ニ違背シテ修理セス又ハ検査官吏ノ臨檢ヲ拒ム者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
前三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由アルモノハ其罪ヲ論セ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十二人

○議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第二十二條 第十條 第十一條第十二條第十五條 四 ヲ犯シタル者ハ一

○ 圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

○ 議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十六人

○ 議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第二十二條 一 檢査細則及ヒ施行ノ手續ハ農商務卿之ヲ定ム

○ 議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十六人

○ 議長 多數ナルヲ以テ本條ニ決ス

○ 議長 第三讀會ハ此ニ終ル全案中ニ所ニ修正ヲ加ヘタレトモ本會

ヲ以テ確決會ト認ム可キヤ否ヤヲ取決セン即チ然ク認ムルニ同意

スル者ハ起立セヨ

起立者二十六人

○ 議長 多數ナルヲ以テ本會ヲ確決會ト看做ス例ニ依リ修正ノ理由

ヲ具シテ上奏セン散會セヨ

午前第十一時五十分閉場

十一月十一日

○議決

○議決

議決書二十六人

○議決

○議決

○議決

元老院會議筆記 明治十七年十一月七日

禁傍聽

○第四百五十三號議案 沖繩縣酒類出港 第一讀會

議長 佐野 常民

出席議員

- 一番 上杉 茂憲
- 四番 籠手田 安定
- 七番 海江田 信義
- 八番 神田 孝平
- 九番 鍋島 幹
- 十番 田中 芳男
- 十三番 箕作 麟祥

十五番	岩村	定高
十七番	長松	幹
十八番	西	周
二十一番	横村	正直
二十二番	三浦	安
二十三番	大鳥	圭介
二十四番	長岡	護美
二十五番	大久保	一翁
二十六番	本田	親雄
二十七番	渡邊	清
二十八番	伊丹	重賢

二十九番	細川潤次郎
三十番	津田 眞道
三十二番	鷺尾 隆聚
三十三番	宮本 小一
三十四番	神山 郡廉
三十五番	楫取 素彦
三十九番	橋口 兼三
四十一番	楠本 正隆
四十二番	西村 貞陽
四十三番	柴原 和
四十四番	福原 實

四十五番 青山 貞

内閣委員 一番外 参事院議官 渡 正元

同 二番外 参事院議官補若山 儀一

同 三番外 参事院員外議官補目賀田種太郎

午前第九時四十分開場

○議長 第四百五十三號議案第一讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

沖繩縣酒類出港稅則左ノ通制定シ本年 月 日ヨリ施行ス

沖繩縣酒類出港稅則

第一條

沖繩縣ヨリ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキハ出港稅トシテ酒類壹石ニ付金三圓ヲ賦課ス

第二條

出港稅ヲ徵收スルタメ那覇港ニ船改所ヲ設置ス

第三條

荷主ハ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキ出港稅ヲ船改所ニ納メ船積免狀并領收證ヲ受ケ船積スヘシ

第四條

船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船改所ニ届ヘシ

那覇港外ノ地方ヨリ直ニ出航スルトキハ其地方役所ニ届出ヘシ

第五條

沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ検査スルコトアルヘシ

但其官吏ハ主任官タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第六條

出港税ヲ納メスシテ酒類ヲ他府縣ヘ輸出セント謀リ又ハ輸出シタル者ハ出港税金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第七條

第四條ノ届出ヲ爲サル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條

此規則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第九條

前條ヤノ場合ニ於テ家族雇人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乗組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

右奉 勅旨布告候事

出席

二番 田邊 太一

○番一渡正
外元

例ニ遵ヒ本案制定ノ要領ヲ略陳セン凡ソ稅政ノ要務ハ其課額ヲ均一ニスルニ在リ蓋シ課額均一ナラサレハ人民ノ負擔ニ輕重ノ偏ヲ生シ營業之カ爲メニ盛衰ヲ致サントス今ヤ沖繩縣民ノ如キ内地人民ト同一政府ノ下ニ居リ同一政府ノ保護ヲ受ク理宜

ク内地人民ト其負擔ヲ均一ナラシムヘキヤ論ヲ竣タス然レトモ其置縣以來日尙ホ淺ク百般ノ税法概シテ舊慣ニ仍ラシム事情已ムヲ得サルニ出ルナリ然ルニ内地ノ奸民看テ奇貨ト爲シテ造酒逃稅ヲ謀リ彼地ニ於テ酒類ヲ釀造シ其釀造稅ヲ逋レテ之ヲ内地ニ輸送シ以テ内地ノ稅則ヲ奉シテ釀造スル酒類ト同一ニ販賣シ正業者ノ生計ニ妨害ヲ與フル妙シト爲サス殊ニ鹿兒島縣下ノ如キ年年酒造廢業人ノ増加スルハ沖繩縣ヨリ無稅酒類ヲ輸入スルニ制セラレ爲メニ衰微ヲ招クニ原由ス因テ速ニ此弊害ヲ防遏セサレハ啻ニ人民ノ負擔ニ輕重ノ偏ヲ生スルノミナラス内地良商ノ産業ヲ害スル漸ク大ナラントス然レトモ彼地ハ酒類ヲ釀造スル爲メニ現米ヲ輸送スルト其釀造セシ酒類ヲ内地ニ輸入スルトノ運費ヲ要シ其費額已ニ

内地ニ於テスル費額ニ超ユル者アリ若シ遽ニ之ニ稅率ノ重キヲ加フルトキハ彼地ノ人民其負擔ニ堪ヘスシテ併セテ固有ノ物産ヲ廢棄スル無キヲ保セス故ニ姑ク時宜ヲ斟酌シ特ニ酒類ノ出港ニ相當ノ稅ヲ課シ内地酒類ノ價直ト權衡ヲ持シ奸商ノ非理ノ利益ヲ僥倖スル念ヲ絶チ課稅平均ノ便法ヲ定メ徵稅額ヲ輕クシテ良商ノ營業ヲ保續セシメントス是レ本案制定ノ旨趣ナリ願クハ各位此旨趣ヲ體シテ速ニ議決上奏センコトヲ

○二十一番 眞村正直 内閣委員ノ辨明ニ因リ稍ヤ本案ノ要領ヲ曉得セシモ猶ホ聊カ疑義ヲ質サン抑モ現行酒造稅規則ハ全國ニ普及スル者ニシテ未タ曾テ沖繩縣ヲ除クトノ明文アルヲ見ス而シテ其他ノ法律規則ニハ往往沖繩縣ハ之ヲ除クトノ明文アルヲ見ル故ヲ以テ沖

繩縣ノ税法ハ總テ舊慣ニ仍ル等ノ特別布告無キヲ得ンヤト百方捜査セシモ終ニ之ヲ檢出セス是ニ由テ之ヲ觀レハ今獨リ本案ヲ沖繩縣ニ布クトキハ沖繩縣人ハ酒造税規則ニ定ムル課税ヲ納メ更ニ本案ニ由テ賦課スル税率ヲ納メ即チ二重税ヲ課セラルル者ニ似タリ知ラス現行酒造税規則ハ實際未タ曾テ沖繩縣ニ行ハレサリシヤ

○番二番儀一 二十一番ノ質疑ニ答ヘン抑モ沖繩縣ノ税法ハ特別ニ蠲免ストノ布告ハ之レ無キモ其百般ノ事情自ラ内地ト趣ヲ異ニスル爲メニ一切ノ税法皆其舊慣ニ仍ラシム故ニ本案ニ於テモ其税率ヲ内地ト同ウスルハ法理ノ當然ナレトモ前陳ノ理由アルヲ奈何セシ然ルニ比來沖繩縣ニ於テハ殆ト酒造税無キヲ奇貨ト爲シテ奸商輩ノ内地ニ於ケル酒造税ヲ逋脱センコトヲ謀リ彼地ニ往キテ釀造

シ以テ之ヲ内地ニ輸入スル弊風ヲ生シ是カ爲メニ鹿兒島縣ノ如キ沖繩縣ニ接近セル地方ノ酒造者ハ自然ニ廢業セサルヲ得サルノ景況ヲ現スルニ至レリ本案ノ成ルハ實ニ此奸策ヲ防遏スルニ在ルナリ

○四十一番 楠本正隆

内閣委員ノ説明ニ依レハ本案ハ實ニ目下ノ弊害ヲ防クニ已ム可ラサル者ナルヲ以テ之ヲ賛成ス蓋シ本案ハ簡明ニシテ復タ疑議ノ容ル可キ無シト雖モ特リ第六條ハ稍ヤ明備ヲ缺クカ如シ其條ニ曰ク「出港税ヲ納メスシテ酒類ヲ他府縣へ輸出セント謀リ云云シタル者ハ出港税金三倍ノ罰金ニ處シ云云」ト夫レ「輸出セント謀ル」トハ概ネ事前ヲ云フ者ナレハ其現品ノ一部ノ或ハ既ニ船ニ載スル有リ或ハ尙ホ陸地ニ在ル有ラン然ラハ則チ其石數ハ判然

ナラサルニ何ヲ以テ出港税金ノ三倍ナル罰金ノ定率ヲ取ルヲ得ン
 若シ出港税金一石三圓ノ稅率ニ據ラント欲セハ終ニ曖昧ヲ免レス
 要スルニ唯其文字ハ讀ムヲ得ヘキモ恐クハ事實ニ當ルヲ得サラン
 且間フ出港稅ナル者ハ從來此他ノ物品ニモ亦之ヲ賦課スル有リヤ
 ○番三番種太郎賀田 沖繩縣ニ於テハ從來出港稅ノ課目ヲ設ケス即チ本
 案ヲ以テ嚙矢ト爲ス又其三倍ノ罰金ハ一石三圓ノ定率ニ據テ徵收
 セントス若夫レ三倍ノ罰金ハ法ヲ酒造稅規則第三十二條ノ「酒類
 ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅
 三倍ノ罰金ヲ科スヘシ」ト言フニ取レリ且其規則中ニ無免許釀造
 者ニ對シテモ三倍ノ罰金ヲ科スル準率アルナリ

○一番上杉茂憲

本案ノ大要ハ領得セシモ尙ホ二三ノ質疑ス可キ者アリ

元來本案ハ内地奸商輩ノ沖繩縣ニ酒造稅ヲ施ササルヲ奇貨ト爲シ
 彼地ニ往キテ無稅ノ酒類ヲ釀造シ以テ内地ニ輸送スル爲メニ其患
 害ヲ受ル内地正業者ヲ保護スルヲ目的ト爲ス故ニ深ク其得失ノ如
 何ヲ計算セサル可ラス例セハ内地ニ於テ釀造スルトキハ稅率ハ過
 重ナルモ運漕費ヲ要セス之ニ反シテ沖繩縣ニ於テ釀造スルトキハ
 全ク課稅ヲ免ルモ原料タル穀類ヲ運漕シ又其釀造セル酒類ヲ運漕
 スル費用ヲ要ス是等ノ費用ノ外ニ在テ更ニ一石三圓ノ出港稅ヲ課
 スレハ内地ニ於テスルト沖繩縣ニ於テスルト其損益能ク相償フヲ
 得ヘキヤ若シ此費用ヲ要スルモ尙ホ内地ニ於テスルヨリ餘益アリ
 ト云ハハ復タ奸商ヲ懲シテ良商ヲ護ルニ足ラサラン第四條ニ「那
 霸港外ノ地方ヨリ直ニ出航スルトキハ其地方役所ニ届出ヘシ」ト言

ヘリ思フニ船改所ハ那覇港ノ一所ニ設クルノミ然レハ則チ那覇港外ノ地方ヨリ出航スル者ハ唯其地方役所ニ届出ルノミニシテ足ル乎將タ其地方役所ニ届出タル後ニ那覇港ニ回航シテ船積ヲ爲スカ若シ然ラハ其荷主ハ頗ル痛苦ヲ感セン蓋シ大船ナレハ概ネ那覇港ニ在レトモ小船ハ各地ニ在レハナリ又第五條ニハ「沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ検査スルコトアルヘシ」ト言ヒ而シテ罰則中ニ其検査ヲ拒ム者ノ裁制ヲ設ケス既ニ裁制ヲ存セスンハ奸商輩ノ検査ヲ拒ム無キヲ保セス以上各點ノ説明ヲ煩ハス

○番二番若山儀一 一番ノ質疑ニ答ヘン説ノ如ク本案ヲ發布シテ内地ノ正業者ヲ保護セント欲スルモ若シ彼此稅率相稱ハサルトキハ却テ其目的ヲ達スル能ハサルコトニ關シテハ主務省及ヒ内閣ニ於テモ

密ニ調査セシ所ナリ今試ニ内地ト沖繩縣トヲ比較シテ其損益如何ヲ調査スルニ内地ニ於テ現米百石其價金四百圓營業稅三十圓百石ノ現米ヨリ釀出スル焼酎七十石其稅金三百五十圓合計七百八十圓即チ焼酎一石ノ價金十一圓十四錢餘ト爲ス沖繩縣ハ從來造石稅ハ之レ無キモ其慣例ニ仍テ一月二圓即チ一年二十四圓ノ稅金ヲ課セリ故ニ現米百石ノ價金四百圓ニ加フルニ内地ヨリ輸送スル賃金三十圓更ニ鹿兒島ニ輸送スル賃金三十九圓ト本案ノ出港稅二百十圓トヲ以テスレハ合計七百三圓即チ一石十圓四錢二厘餘ト爲ス此ノ如キ計算ナルヲ以テ一石三圓ノ出港稅ニ止メタリ第四條第二項ハ本員モ沖繩縣ノ地勢ヲ知ラサレトモ聞クカ如キハ大概那覇ヨリ出港スト故ニ此要地ニ船改所ヲ置カハ可ナラン若シ他ノ地方ヨリ

出航スル者ハ其地方役所ニ届出ヲ爲シ船積ヲ爲スニハ那覇港ヨリ
免許ヲ與ヘテ地方役所ニ検査セシム但シ是等ノ細則ハ主務省ノ達
書ヲ以テ明示セント欲スルナリ其第五條ノ検査ヲ拒ム者ノ如キハ
刑法ニ明文ノ在ル有リ故ニ特ニ本案ニ掲記セス

出席

六番 野村 素介

○十三番 箕作 麟祥 内閣委員ノ辨明ニ依テ知ル酒造税ノ過重ナル爲メニ
内地姦商輩ノ逃税ヲ謀リ沖繩縣ニ往キテ幾ント無税ニ均キ酒類ヲ
醸造シ以テ之ヲ内地ニ輸送シ爲メニ内地ノ正業者ヲシテ廢業セシ
ムルニ至レルヲ故ニ本案ヲ發シテ此ヲ保護シ彼ヲ防制スルハ甚々
善シ元來同一政府ノ下ニ在テハ其税法ノ宜ク均一ナルヘキハ言ヲ
待タサレトモ沖繩ハ新置ノ縣ナルカ爲メニ其人民ニ課税ヲ輕クス

ルモ亦可ナリ然リト雖モ本官ハ別ニ杞憂ヲ懷ク無キ能ハス聞ク沖
繩縣下ニハ從來泡盛ト稱スル焼酎ヲ醸造シ此焼酎ヲ内地ニ輸出ス
ルヲ生業ト爲ス者アリト知ラス此輸出額ハ大約幾許ナリヤ我カ政
府ノ沖繩縣ニ對スル處分ヲ觀ルニ其支那國ト關係ヲ有スル爲メニ
專ラ撫安ヲ事トシ國民ノ義務ニ免ル可ラサル徴兵ノ如キモ亦其令
ヲ今日ニ實行セスカメテ寛大ヲ旨トセリ此ノ如ク寛大ノ處分ニ出
ルモ尙ホ時トシテ不平士族輩ノ支那國ニ奔ル有リ政府ヲ怨ム有リ
此徒モ近年大ニ朝廷ノ寛大ナルニ服セルモ未タ全ク朝旨ノ貫徹セ
リトハ謂フ可ラス是レ沖繩人民ニ對シテハ税率ヲ輕クシテ保護ヲ
重クスル所以ナリ本案ハ内地ノ姦商ヲ防制スルヲ本旨ト爲ス可キ
モ若シ沖繩人民ニシテ從來泡盛等ヲ内地ニ輸送スルヲ以テ生業ト

爲ス者アリトセハ本案ノ爲メニ其生業ヲ廢スルニ至ラン果シテ然
ラハ姦商ヲ懲スト同時ニ正業者ヲ苦ムル無ランカ百般ノ施政ハ悉
ク寛大ヲ旨ト爲スニ獨リ此一事ノミ反對ニ出ルハ何ソヤ故ニ本官
ハ從來泡盛等ヲ内地ニ輸送スル無クンハ問ハサレトモ若シ之レ有
リトセハ他ノ施政ノ寛大ハ忽チ本案ノ爲メニ水泡ニ屬シ去ンコト
ヲ憂フルナリ

○番三番種目賀田外種太郎

出港稅ヲ一石三圓ニ定メタルハ沖繩人民ノ内地ニ
酒類ヲ輸送スルヲ生業ト爲ス者ニ害セス而シテ内地奸商ノ彼地ニ
往キテ逃稅ヲ謀ル者ヲ制スル中庸ノ程率ニ取リシナリ抑モ沖繩人
民ノ酒類ヲ釀造スルニハ米ヲ以テスル者ト黍ヲ以テスル者トノ二
種ニ區別ス米ヲ以テ釀造スル者ハ中等社會以上ノ飲料ニ供スルニ

在テ那覇首里ノ兩所ニ限り而シテ最モ那覇ヲ多シトス十六年ニ那
覇ニ於テ釀造セル總額ハ八千九百九十五石ト爲ス是ヨリ以前ノ各
年モ恐クハ八九千石ノ間ニ在ラン其黍ヲ以テ釀造スル者ハ專ラ下
等人民ノ自家用料ニ供スルノミ此八九千石中ノ若干石ヲ内地ニ輸
送スルヤハ判然ナラサレトモ其半額ト假定セハ蓋シ中ラン又其釀
造戸數ヲ調査スルニ十二年ニハ一百二十五戸ナリシモ今ヤ減シテ
六十戸ニ下レリ但シ實際ニ檢覈セシニ免許稅ヲ納メスシテ竊ニ釀
造スル者現ニ二百餘戸アリ是ニ由テ之ヲ觀レハ土人中ニモ既ニ逃
稅ヲ謀レル姦商アルナリ故ニ三圓ノ出港稅ヲ課スルトキハ彼此ノ
奸商ヲ防制スルニ足ル可シ

○四十三番和柴原

本案ノ要領ハ內閣委員ノ説明ト各位ノ內閣委員ニ

質問セル答辨トニ因テ之ヲ知り其大體ハ賛成スレトモ二三ノ質問
 ヲ爲サント欲ス第一條ニハ沖繩縣ヨリト言ヒ第五條ニハ沖繩縣下
 ヲリト言ヘリ是レ瑣微ニ涉レトモ斯ク兩様ニ用字ヲ下ストキハ人
 民或ハ第一條ハ沖繩縣全域ヲ指シ第五條ハ縣廳下即チ縣廳所在地
 ヲ指ストノ疑ヒ無キヲ保セス知ラス特ニ注意シテ此用字ヲ下セリ
 ヤ第六條ハ隣席議官ノ既ニ質問シタレトモ其説明ノ未タ足ラサル
 如キヲ以テ更ニ問ハン即チ其第六條ノ質問ニ對シ内閣委員ハ酒造
 税規則第三十二條ヲ援引シタレトモ彼ハ隱蔽シタル者ナルヲ以テ
 發覺スレハ其石數モ判然ニ知ル可キカ故ニ三倍ノ罰金ヲ科スルヲ
 得レトモ之ニ反シテ本案ハ輸出セント謀リト言ヘルナレハ三倍ノ
 率ヲ得ルノ方途ナカラシ若シ三十石五十石ヲ輸出セント謀リシナ

レハ三倍ノ罰金ニ處スルヲ得ルモ其謀ルヤ種種ノ手段アル可シ敢
 テ其算則ノ由テ起ル所ヲ問フ

○外三番種目賀田種太郎 第五條ノ「縣下」ノ下ノ字ハ敢テ他意アルニ非ス參

事院ニ於テ數回修正ヲ加ヘタルヲ以テ偶然ニ塗抹スルヲ怠タリシ
 ノミ即チ第一條ト共ニ沖繩縣全域ヲ指スナリ第六條ノ場合ニハ二
 様ノ差別アリ其一ハ出港税ヲ納メスシテ輸出スル者ヲ謂ヒ其一ハ
 出港税ヲ納メス検査ヲ經スシテ輸出スル者ヲ謂フ此二様ノ場合ハ
 共ニ輸出ヲ謀ル者ナレハ酒類ノ現存スルハ論ヲ待タス若シ現存ス
 ル酒類ナクシハ唯是レ豫案中ニ在テ未タ輸出ヲ謀ルトハ認定ス可
 ラサルナリ

○二十六番本田親雄 本官ノ質問セント欲スル疑點ハ各位既ニ之ヲ質問

○シ内閣委員答辨セルニ因テ曉得セシモ更ニ一事ヲ質問セン抑モ一石三圓ノ出港税ヲ課スルハ新法ナリ元來沖繩縣ノ造酒者ハ毎戸二圓ノ月税ヲ納メ而シテ此月税ハ舊慣ニ仍ル者トス故ニ今此舊慣ノ月税ニ加フルニ本案ノ出港税ヲ以テセハ合計五圓ノ課税ト爲ル知ラス本案ヲ布ケハ舊慣ノ月税ハ之ヲ廢スルカ

○番二番若山儀一 二十六番ノ疑問ハ稍ヤ了解スルニ苦メトモ推測スル所ニ因テ之ニ答ヘンニ沖繩土人タル造酒者ノ月税ハ二圓ニシテ一年二十四圓ト爲ス是レ恰モ内地ノ營業税ナル三十圓ニ同キ者ナリ今敢テ二圓ノ月税ニ加フルニ更ニ一石三圓ノ課税ヲ以テスルニ非ス一石三圓ハ出港税ニシテ猶ホ内地ノ造石税ノコトキ者ナリ思フニ内地ナレハ造石税ハ一石五圓ナレトモ沖繩ハ運送賃ヲ要スルヲ

以テ三圓ト定メタリ蓋シ内地ト同ク宜ク樽桶ノ容量等ヲ検査スヘキモ然スルトキハ民心ヲ傷フヲ以テ姑ク之ヲ寛假セリ是ヲ以テ官吏ノ如キモ務メテ土人ノ中ニ取り以テ煩勞ヲ省カント期スルナリ

○議長 他ニ質問發議ナキヲ以テ第一讀會ヲ畢ル第二讀會ハ來十日ニ之ヲ開カン散會セヨ

午前第十時三十五分閉場

元老院會議筆記明治十七年十一月十日

禁傍聽

○第四百五十三號議案 沖繩縣酒類出港 第二讀會

議長 佐野常民

出席議員

- | | | |
|----|-----|----|
| 一番 | 上杉 | 茂憲 |
| 二番 | 田邊 | 太一 |
| 四番 | 籠手田 | 安定 |
| 五番 | 東久世 | 通禰 |
| 六番 | 野村 | 素介 |
| 八番 | 神田 | 孝平 |
| 九番 | 鍋島 | 幹 |

十一番	津田 出
十二番	河田 景與
十三番	箕作 麟祥
十四番	稅所 篤
十五番	岩村 定高
十六番	岩下 方平
十七番	長松 幹
十八番	西 周
二十番	林 友幸
二十一番	榎村 正直
二十二番	三浦 安

二十三番	大鳥 圭介
二十四番	長岡 護美
二十五番	大久保一翁
二十六番	本田 親雄
二十七番	渡邊 清
二十八番	伊丹 重賢
二十九番	細川潤次郎
三十番	津田 眞道
三十三番	官本 小一
三十四番	神山 郡廉
三十五番	楫取 素彦

三十九番 橋口 兼三

四十番 井田 讓

四十一番 楠本 正隆

四十三番 柴原 和

四十四番 福原 實

四十五番 青山 貞

内閣委員 一番外 參事院議官 渡 正元

同 二番外 參事院議官補若山 儀一

午前第九時四十分開場

○議長 第四百五十三號議案ノ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

布告案

沖繩縣酒類出港稅則左ノ通制定シ本年 月 日ヨリ施行ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ可ト決シ第一條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

沖繩縣酒類出港稅則

第一條

沖繩縣ヨリ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキハ出港稅トシテ酒類壹石

ニ付金三圓ヲ賦課ス

○三十番 津田 眞道 各位ノ同意ヲ得ルヤ否ヤヲ知ラサレトモ試ミニ修正

説ヲ提出シ本官ノ想考スル所ヲ陳述セシ其修正タル「酒類壹石ニ付金三圓ヲ賦課ス」ト言ヘル「三」ノ字ヲ「二」ノ字ニ改メントスルニ在リ抑モ第一讀會ニ方リ某議官ノ陳辯セル如ク沖繩縣ニ於テハ從來出港稅ハ一錢タモ賦課セサリシニ今回頓ニ三圓ヲ賦課スルハ急激ニ過ルノ罣慮ナキ能ハス原來本案ノ如クセシハ沖繩縣ノミ舊慣ニ任セ無稅輸出ヲ許ストキハ奸商之ヲ奇貨トシテ非理ノ利益ヲ僥倖シ正業者ノ生計ニ妨害ヲ與フル勢カラサルヲ以テ斯ク壹石ニ三圓ノ出港稅ヲ賦課セサル可ラスト言フニ在シ然レトモ本官ノ想考スル所ハ壹石ニ金二圓ト修正シテ造石稅ト權衡ヲ持セシメント云フニ非ス曩ニ酒造稅則ニ明掲セル造石稅ノ二圓ナリシヲ四圓ニ改メシハ陸海軍ヲ擴張スル爲メニハ已ムヲ得サルコト、信シテ同意ヲ

表シタリ是レ蓋シ當初二圓ナリシヲ倍シテ四圓ニ改メタルカ故ニ從來ノ造石額ヲ四百萬石ト爲セハ其税金ハ八百萬圓ナルヲ以テ増稅ニ因リ一千六百萬圓ヲ收入ス可キ比例ニシテ其八百萬圓ハ陸海軍擴張ノ費用ニ充テ以テ歐米各國ト比肩セントスル翹望ニ出テ其必ス然セサル可ラサルヲ信セシナリ然ルニ近時新聞紙ノ報道スル所ヲ觀ルニ京坂地方ノ酒造家ハ造石額ヲ半減スルニ至レリト此報道ヲシテ實ナラシメハ一千六百萬圓ヲ收入シ得ヘシト信セシモ何ソ圖ラン依然八百萬圓ヲ收入シ得ルニ過キスシテ初ヨリ増稅ヲ爲ササルト其結果ヲ同ウス新聞紙ノ報道スル所ハ虛實如何ヲ知ラサレトモ強カチ架空ノ妄説ニモ非サル可シ況シテ世上ノ景況ヲ觀察セハ處トシテ不融通不景氣ノ嘆聲ヲ絶タサルハ諸君ノ熟知セル所

ナルヲヤ夫レ此ノ如ク酒類ノ造石額ヲ減少セルハ醸造スルモ販賣ノ途ヲ得サルニ原因ス其造石額ニ減少ヲ來スハ必然ノ理勢ト謂フ可シ其造石額ノ二分ノ一ヲ減セシヤ將タ三分ノ一ヲ減セシヤハ詳知スルヲ得サレトモ其減シタルハ疑フ可キニ非ス是レ必ス酒造稅壹石金二圓ナリシヲ金四圓ト爲セシ影響ナルノミ又本邦輸出品ノ最モ著名ナル生糸及ヒ製茶ノ如キ横濱神戸ニ於テモ其輸出額ヲ減シ隨テ其價直ヲ降スニ至リ縱令直輸出ヲ爲スモ亦損失ヲ受ケサルヲ得ス加旃日本全國ニ於テ四百萬石ノ米ヲ糜シテ造酒ニ充ツト看ハ三千萬石中ノ二千六百萬石ヲ食用ト爲シ其餘ハ悉ク之ヲ造酒ニ供セシナラシモ新聞紙ノ報道セル如クナラハ二百萬石ヲ餘スニ因リ十五年ト十六年ト本年トヲ合算スレハ大凡六百萬石ヲ餘セルナ

ル可シ事實斯ノ如クナルヨリ米價下落ス昔時ハ米價下落スレハ人民其生活ノ易キヲ喜フ慣習ナリシモ近來ハ米價下落スレハ人民却テ困窮ス是レ實ニ怪ム可キナリ三千六百萬ノ人民多クハ農ニ屬スレトモ農ハ其收穫ヲ自家ノ食料ニ供セス賣テ以テ諸費ニ充ル者トス然ルニ米價下落スレハ收穫ヲ賣ルモ利潤ヲ得ル能ハス蓋シ農工商共ニ利潤ヲ得ルハ到底難事ナリト雖モ近年ノ如ク農工商共ニ困窮スルハ古來聞知セサル所ナリ昔日人民ノ困窮セシハ凶荒ノ歲ニ在リ本官幼時飢饉ニ遭フテ多人ノ餓死シ又百姓一揆ト唱ル者ノ蜂起セシコトヲ聞ケリ當時三千萬石ノ收穫ヲ得ヘキニ僅ニ百萬石内外ニ上ヲサリシヨリ人民概子粥ヲ啜リ草根木皮ヲ食セシモ其物料スラ全ク竭キテ餓孳塗ニ載チタリシニ今日ハ之ニ反シテ食ニ餘リ

有ルモ衣服ヲ買フ能ハス米ニ餘リ有ルモ魚菜ヲ買フ能ハス過日埼
 玉縣ニ暴徒蜂起セシヤ其原因ハ種種ナル可キモ所謂不融通不景氣
 ノ近因ヲ爲セルハ諸君ノ熟知スル所ナラン本官ノ如キモ此景況ヲ
 憂慮スレトモ未タ之ヲ挽回スル方策ヲ得サルナリ已ム無シハ酒造
 稅一石金四圓ナルヲ二圓若クハ三圓ト爲サハ可ナラン歟一石金二
 圓ニ減スルトキハ酒造者ニ於テモ利潤ヲ得ルニ因リ釀造額モ四百
 萬石ニ上ラン然レハ一石四圓ノ造石稅ヲ徵シテ二百萬石ヲ釀造セ
 シムルヨリハ一石二圓ノ造石稅ヲ徵シテ四百萬石ヲ釀造セシムル
 ニ如カサラン斯ノ如クスルモ政府ノ收入ニ増減ヲ致サス米價ニ濫
 高下ヲ生セスシテ大ニ農民ニ便益スル有ラン歐米各國ニ在テハ麥
 ヲ以テ常食ト爲セルモ其價ニ濫高下ヲ生スルヲ聞カス是レ政略ノ

宜キヲ得タルニ由ル可キモ其基ク所ハ航海術ノ早ク開ケ貿易商業
 ノ常ニ盛ナルニ在ルナラン我國ノ如キハ大ニ之ト異ニシテ多ク酒
 類ヲ釀造スルトキハ隨テ多ク米穀ヲ販賣シ得ヘク需要ノ以テ供給
 ヲリ増セル爲メニ米價騰貴スルトキハ人民復タ不融通不景氣ヲ口
 ニ唱ル無キニ至ル可シ僅ニ貳百萬石ノ米穀ト雖モ其措置ヲ施サス
 シテ現狀ニ放委スルトキハ何ノ時カ能ク此衰退ノ景況ヲ救濟スル
 コトヲ得シ徒ニ米穀ヲ腐敗ニ歸セシメシノミ昔時幕府閣老水野出
 羽守ハ豐年米粟ノ過多ナルニ苦ミ之ヲ海中ニ投棄セシメタリト云
 フ今日飲酒者ヲ増スハ喜フ可キコトニ非サレトモ徒ニ堆積シテ腐
 敗ニ歸セシムルニ比スレハ稍ヤ得策ト謂フ可シ懶惰者ノ爲メニハ
 其害ヲ加ヘンモ彼ノ人力車夫ノ曉天ヨリ夜陰ニ至ルマテ東奔西馳

スル者ノ如キ下等社會ニ在テハ一盃ノ晚酌以テ其勞役ヲ醫ス抑モ酒ナリ煙草ナリ人人大抵之ヲ嗜マサル莫シ然レトモ酒ヲ嗜ム者ハ十人ニ六人ノ比例ニシテ煙草ヲ嗜ム者八十人ニ八人ノ比例ナル可キニ因リ概シテ之ヲ言ヘハ多數ノ嗜好物ト謂ハサルヲ得ス既ニ多數ノ嗜好物ナル以上ハ到底禁遏スルコト能ハサル可シ聞ク米國ニハ禁酒會ノ設ケ有リト是レ道德上ニ於テハ嘉ス可キコトナレハ百年ノ後ニハ行ハルヲ得ンモ到底今日ニハ行ハル可キニ非ス日本全國ノ多數人民カ酒ヲ嗜ムナレハ容易ク其飲料ヲ供シ得ルコトヲ要ス彼ノ埼玉縣ノ暴徒ノ變動ヲ起スニ至テハ其事後ノ景況果シテ如何ソヤ暴徒ハ刑ニ處セサルヲ得ス而シテ其家族ハ活計ヲ立ル能ハサラン又其暴舉ニ際シテハ政府モ之ヲ鎮壓スルニ兵隊ヲ派セサル

可ラス實ニ困難ニ困難ヲ重ヌル者ト謂フ可シ故ニ本官ハ造石稅ノ壹石四圓ナルヲ貳圓若クハ三圓ニ減セント欲シ調査ヲ經テ酒造稅則修正意見書ヲ提出セント期スレトモ今先ツ本案ノ三圓ト爲セルヲ貳圓ニ改メン元來酒造稅則ノ改正ニ關シ綿密ナル調査ヲ遂ケタルニ非ス只唯新聞紙ノ記載セル所ニ據テ見解ヲ立タルノミ然レトモ新聞紙ノ記載セル所ヲ信シ民間ノ困窮ト埼玉縣暴徒ノ景況トヲ考察シ加フルニ或ハ他ノ地方ニ於テ暴徒ノ蜂起スル無キヲ保シ難キヲ以テセハ此時ニ當テ之ヲ救濟スル方策ヲ講セサル可ラス蓋シ酒造稅ヲ減少スル如キ或ハ拙策ナルヤヲ知ラサレトモ稍ヤ今日ノ人情ニ適スル者ト想考ス故ニ各位ノ幸ニ先ツ本案ノ「金三圓」ヲ「金二圓」ニ改ムル修正ヲ賛成シ以テ今日民間逼迫ノ景況ヲ挽回セン

コトヲ切望ス

○二十七番渡邊清

賛成ス壹石ニ金三圓ヲ賦課スルハ重キニ過ク原案

ノ如クナレハ恐クハ酒造者ヲ減少スルニ至ラン沖繩縣ハ其產出物
品モ泡盛砂糖等ニ過キサレハ其營業ニ妨害セサル爲メニ務メテ稅
額ヲ輕クスルヲ要ス然レトモ若シ提警ヲ施ササレハ奸商之ヲ奇貨
トシテ私利ヲ占ルニ由リ宜ク正業者ヲ保護スヘク犯則者ニハ四倍
若クハ五倍ノ罰金ヲ徵スルモ可ナリ故ニ本官ハ三十番ト所見ヲ異
ニスレトモ其減額ヲ爲スハ同感ナリトス

○議長 三十番ノ「三圓」ヲ「二圓」ト改ムル修正說ハ賛成者アルヲ以テ
問題ト爲ス

退席

八番

神田 孝平

○外二番若山儀一

三十番ノ動議ハ其事枝葉ニ涉ルヲ以テ沈黙ヲ守ルモ
可ナレトモ原案ノ主旨ヲ明カス爲メニ聊カ陳辨セン本員等ノ想考
スル所ヲ以テスレハ今日民間ノ困迫ハ紙幣ノ變動ヲ第一ト爲シ地
租ノ過重之ニ次ク聞ク地租ノ過重ナル昔時印度「アシラ」府ニ行ハ
レタル過重ノ地租ヨリモ甚シト三十番ハ酒造稅則ノ造石稅ヲモ改
定セント云フ未タ其意見書ヲ見ルヲ得サレトモ本案ハ第一讀會ニ
モ陳述セシ如ク三圓ヲ賦課スルモ決シテ偏頗ナルニ非ス内地ニ於
テ現米壹石ノ價金四圓即チ百石ニ四百圓ニシテ營業稅三十圓ト爲
シ百石ノ米ヨリ釀出スル燒酎七十石ニシテ其稅金三百五十圓合計
七百八十圓ナリ然ルニ奸商ノ酒造稅ヲ逃脫セント謀リ沖繩縣ニ於
テ釀造シ以テ内地ニ輸入スル弊風ヲ生シ爲メニ鹿兒島地方ノ正業

者ハ自ラ其業ヲ廢スル景況ヲ現スルニ至レリ本案ヲ制定セルハ實ニ此奸策ヲ防遏スルニ在リ願クハ原案ノ如ク議決センコトヲ

○議長 三十番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三人

○議長 少數ナルヲ以テ三十番ノ修正説ハ消滅ス

○議長 他ニ發議ナクハ決ヲ取ン本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者三十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第二條

出港稅ヲ徵收スルタメ那覇港ニ船改所ヲ設置ス

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者三十一人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第三條

荷主ハ酒類ヲ他府縣ヘ輸出スルトキ出港稅ヲ船改所ニ納メ船積免狀并領收證ヲ受ケ船積スヘシ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者三十三人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第四條

船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船改所ニ届ヘシ

那覇港外ノ地方ヨリ直ニ出航スルトキハ其地方役所ニ届出ヘシ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第五條

沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ検査スルコトアルヘシ
但其官吏ハ主任官タルノ證票ヲ携帯スヘシ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ可ト決シ次條ニ移ル

書記官 森山 茂 朗讀

第六條

出港稅ヲ納メスシテ酒類ヲ他府縣ヘ輸出セント謀リ又ハ輸出シタル者ハ出港稅金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵ス

○二十二番 三浦 安 「輸出セント謀リ」ト言ヘルヲ「輸出セントシ」ト修正

セン第一讀會ニ一二議員ノ内閣委員ニ質疑セシ如ク「謀リ」ノ文字ハ刑法ニ掲ル謀殺ノ謀ノ字ナレハ之ヲ以テ輸出シタル者ト同視ス

ルハ不可ナリ故ニ「輸出セントシ」ト爲セハ事實ニ顯ハレタル者ニシテ其罪狀モ明白ナルヲ得ン

○二十三番 大鳥圭介 賛成ス「謀リ」ノ字ヲシニ換ルハ至當ナリ其理由ハ發議者ノ陳辨セシ如ク「謀ル」トハ俗語ニ於テハ相談ヲ爲スト云フニ在リテ之ヲモ罰金ニ處スルハ不可ナリ形跡ニ顯レタル以上ニ非サレハ科罰ス可ラス

○三十五番 緝取素彦 本官モ賛成ス本條ノ場合ハ固ヨリ未遂犯ナレハ之ニ出港税金三倍ノ罰金ヲ徴スルハ不可ナリシノ字ニ改ルニ如カス
○議長 二十二番ノ修正說ハ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○十三番 箕作麟祥 現問題ノ如クスルモ解シ難キニハ非サレトモ本官ハ原案ノ如クニシテ可ナルヲ信ス刑法第一編第九章即チ未遂犯罪ノ

章中第百十一條ニ「罪ヲ犯サンコトヲ謀リ又ハ其豫備ヲ爲スト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ハ本條別ニ刑名ヲ記載スルニ非サレハ其刑ヲ科セス」ト言ヘリ本條ノ「謀リ」ノ字ハ輸出セント相談スル如キ者ヲ謂フナル可シ佛蘭西語ニ所謂「タンカチーフ」即チ心ニ思ヘルノミヲ指言スルニ非ス刑法第百十一條ハ心ニ思ヘルノミヲ指言スルニ非サルヲ以テ若シ輸出セントスル準備ヲ爲サハ則チ出港税金三倍ノ罰金ニ處スト云フニ在リテ準備ヲ爲セハ既ニ罪ヲ犯シタルニ同シ故ニ現問題ノ如クスルモ可ナレトモ是レ刑法ノ原則ト事例ヲ同ウスルナレハ刑法ト文字ヲ同ウスルヲ優レリトス

○四十三番 柴原和 第一讀會ニ於テ「謀リ」ノ文字ト三倍ノ罰金トノコトニ關シ内閣委員ニ質疑シ第二讀會ニ至ラハ修正說ヲ提出セント

欲セシニ二十二番ヨリ内閣ノ旨意ヲ酌ミシノ字ニ改ムル修正説ヲ提出セリ本官ハ爲シト改メント思ヒシモ現問題ノ如クシテ支障ヲ見サルヲ以テ之ヲ賛成ス抑モ原案ノ如クセハ取押告發ヲ爲スニ苦マン倉庫内ニ在ル樽酒ヲ輸出セント相談スル書翰ヲ證據ト爲スモ其石數ハ算出ス可ラスシテ終ニ其罪ヲ逃ルルニ至ラン十三番ハ刑法第百十一條ニ依テ論難セルモ刑法ノ明文ハ刑ヲ科セサルヲ主意ト爲スニ在リテ本案ハ刑ヲ科スルニ在レハ石數ヲ算出スルニ苦マシ是レ文字ハ同シキモ主旨ハ異ナリ故ニ二十二番ノ説ニ決センコトヲ望ム

○四十一番 楠本正隆 本官ハ別ニ想考スル所アレトモ錯雜ニ涉ルヲ恐ルルヲ以テ第三讀會ニ讓リ今先ツ問題ヲ賛成ス

○十三番 箕作麟祥 本官ハ原案ノ如クシテ可ナルヲ信シ刑法ノ未遂犯罪ノ條ヲ引テ陳辨セシニ某議官ハ刑法第百十一條ハ刑ヲ科セサルニ在レトモ本案ハ刑ヲ科スルニ在リト云ヘリ是レ本官ノ辨明ノ足ラサルヨリ此疑難ヲ來セシナル可シ本官決シテ本案ヲ刑法ト同一ナリト論セシニ非ス内閣ハ例外法ヲ立テタリト看テ刑法第百十一條ヲ援引セシノミ其同一ナラサルハ素ヨリ明白ナリトス

○二十八番 伊丹重賢 原案ニ從フモ問題ノ如クスルモ大同小異ナルノミ既ニ大同小異ナル以上ハ修正スルヲ要セス宜ク原案ニ從フヘシ煙草稅則第三十六條ニモ「帳簿ノ登記ヲ詐テ脫稅ヲ謀リ若クハ脫稅ノ便ヲ與ヘタル者云云」ト言ヘル有リ且既ニ刑法ニ「謀リ」ノ文字ヲ用フルヲ以テ本官ハ原案ヲ是認ス

○二十二番 三浦安 本條ハ刑法ノ原則ト其場合ヲ異ニス刑法ノ原則ニ據レハ未遂犯ハ其罪ヲ科セサルニ在レトモ若シ然スルトキハ提警ノ周密ナラサルカ故ニ本條ヲ以テ之ヲ罰スルナレハ刑法ト比照シテ論ス可キ者ニ非ス是レ全ク別法ト看サル可ラス罪ヲ科セサルニハ「謀リ」ノ文字ヲ用ルモ可ナレトモ罰ニ處スルニハ十分ニ明瞭ナラシムルヲ要ス二十八番ノ煙草稅則ヲ引證セルハ誤レリ是レ帳簿ノ登記ヲ詐リテ脫稅ヲ謀ル形跡ノ存スレハナリ本條ノ場合ハ輸出セント相談スルニ止マル者ナレハ形跡ノ分明ナラサルニ苦シム刑法第一百一條及ヒ煙草稅則第三十六條ハ共ニ援引其當ヲ得サルナリ

○三十九番 橋口兼三

「輸出ヲ謀リ」ト爲セハ石數ヲ算出スルニ困ムト云

フモ謀ルトハ他人ト謀リ若クハ自ラ謀ルヲ謂フニ在リテ假令他人ト謀ル有ルモ實際ニ其物品ノ存セサレハ檢察官ト雖モ奈何トモスル能ハス既ニ三倍ノ罰金ニ處スト言フ以上ハ其形跡ノ明白ニシテ石數ノ算出ス可キ者ナルハ論ヲ待タス故ニ本官ハ原案ヲ是認ス

○二十九番 細川潤次郎

本官モ原案ヲ是認ス明治十年八月十一日第五十

六號布告北海道諸產物出港稅則並各港船政所規則ノ第十條ニ「諸船舶出港稅未納或ハ納稅目錄外ノ產物ヲ竊ニ積載各府縣へ輸送セント謀リ又ハ府縣下ニ於テ陸揚スルモノハ科料トシテ云云」ト言ヘリ其文字ニ輸出ト輸送トノ差異アレトモ既ニ此ノ如キ類似ノ明例ヲ見ル以上ハ原案ニ據ルヲ可ナリトス

○四十三番 柴原和

二十九番ノ言ハ至當ナルニ似タレトモ其援引セシ

布告文中ニハ積載ノ文字ヲ掲ケ其形跡ヤ明白ナルモ本案ノ如キハ積載ノ文字ヲ掲ケス隨テ三倍ノ罰金ニ科スル者トス既ニ三倍ト云フ以上ハ必ス事實ニ徴スル石數ナカル可ラス然ラサレハ石數ハ得テ算出ス可ラス豈敢テ密輸出ヲ謀ル書翰等ノ證據ヲ以テシテ算出シ得ヘケンヤ蓋シ若干圓ノ罰金ヲ科スルト言フニ在レハ原案ノ如クシテ可ナレトモ三倍ト云フ以上ハ其之ヲ算出スル實品ナカル可ラス故ニ二十九番ノ言ヘル積載ノ實跡アル場合トハ大ニ異ナリ二十九番ハ恐クハ積載ノ文字ニ注意セサリシナラン

○二十三番 大鳥圭介 輸送ト輸出トハ別異アラン輸出トハ他ニ出タスコトニシテ倉庫内ニ於テモ之ヲ言フ可ク輸送トハ實物ヲ輸送スルニ在リ故ニ曖昧ナル文字ヲ用フルヨリハ明白ナル文字ヲ用ルニ如カ

ス

○外一番 渡正元

本案前各條ノ速ニ議定ヲ得タルハ内閣委員タル本官等ノ多幸ナリシニ本條ニ至リ「輸出セント謀リ」ノ文字ニ關シ種種ノ議論ヲ生シ各議官其所見ヲ異ニスレトモ從來ノ法律ニモシト爲セル有リ「謀リ」ト爲セル有リテ別ニ深意ノ存セルニ非ス唯是レ刑法其他現行諸法律ノ例文ニ從ヒ此ノ如クシタルノミ敢テ熱心シテ原案ヲ維持スルニ非ス聊カ内閣委員ノ意見ヲ陳ヘテ以テ各官ノ參考ニ供ス

○四十三番 柴原和

番外一番ハ熱心以テ原案ヲ維持セスト云ヘリ是レ大ニ議場ノ景況ニ關スルニ因リ更ニ一言ヲ呈シテ其辨明ヲ請ハサル可ラス番外一番ハ本案ノ如クセシハ深意アルニ非ス刑法其他ノ

法律ノ例文ニ依レリト云フ本官ハ「積載各府縣へ輸送セント謀リ」ト言ヒ「帳簿ノ登記ヲ詐リ脱税ヲ謀リ」ト言フ例文アルヲ知ルモ未タ「輸出セント謀リ」ト言ヘル如キ形跡ナキ者ヲ若干倍ノ罰金ニ處スル例文アルヲ知ラス蓋シ實ニ之レ有ン請フ明カニ指示スルヲ

○外一番渡正 四十三番ハ内閣委員ニ辨明ヲ求メタル乎

○議長 四十三番ハ番外一番ノ陳辨ニ由テ質問ヲ發シタルナリ

○外一番渡正 「謀リ」ト爲スモシト爲スモ敢テ意味アルニ非ス讀テ字ノ如ク「輸出セントシ」ト言ヘハ將サニ輸出セントシタルニテ「輸

出セント謀リ」ト言ヘハ輸出セント謀リタルノミ

○外四十三番柴原和 番外一番ハ刑法其他ノ法律ノ例文ニ依レリト云フ

ニ因リ本官之カ辨明ヲ求メタルナリ本官ノ質問セル旨趣ハ形跡ナ

キ者ヲ三倍ノ罰金ニ處スル如キ事例アリヤ否ヤヲ問フニ在リ字義ノ辨明ヲ求メタルニ非ス

○外一番渡正 三倍ノ罰金ニ處スルコトハ別ニ的例ナケレトモ第一

條ニ「出港税トシテ酒類壹石ニ付金三圓ヲ賦課ス」ト言ヘルニ由テ壹石ヲ輸出セント謀レハ三圓ノ三倍即チ九圓ヲ科スルナリ

○議長 内閣委員ニ問フ「輸出セシト謀リ」ト言フハ未タ輸出セス而

テ輸出シタル者ハト言フハ既ニ輸出セシヤ明瞭ナリ然ルニ第三條ノ出港税ヲ船改所ニ納メ船積免狀ヲ受ケテ輸出スル順序ヲ履マス私ニ船積セントスル者ヲ「謀リ」ト謂フヤ若クハ倉庫内ニ在ルモ竊ニ輸出センコトヲ相談スル如キモ亦之ヲ「謀リ」ト謂フヤ

○外一番渡正 議長ノ質問ニ答シ酒類ヲ他府縣ニ輸出セントスルニ

ハ出港税金ヲ船改所ニ納メ船積免狀等ヲ受ルヲ常則ト爲ス然ルニ此順序ヲ履マスシテ出船セントスルヲ「謀リ」ト謂フ倉庫内ニ在ル酒類ノ輸出ヲ内密ニ相談スル如キニハ及ホササルノ精神ナリ

○議長 既ニ船積シ又ハ船積セントスル如キ明カニ形跡アル者ヲ「謀リ」ト謂ヒ酒類ハ尙ホ倉庫内ニ在リ又ハ内密ニ輸出セント相談スル如キハ此文字中ニ包含セサルカ

○外一番渡正 議長ノ見解ノ如シ即チ第三條ノ順序ヲ經スシテ輸出シ又ハ輸出セントスル者ヲ指スナリ

○出十一番津田 本官ハ内閣委員ノ辨明ハ原案ノ精神ト背馳スルニ似タリト想ヘリ本官ハ原案ニテ可ナリト信セシニ今ヤ議場ノ景況ヲ觀ルニ大ニ諸說混亂セルカ如シ因テ聊カ本官ノ見解ヲ陳シニ船積

スル如キハ本條ノ未遂犯罪トシテ罰スルヲ得ルニ由リ此「謀リ」ノ文字ハ刑法ノ未遂犯罪ノ場合ヲ除却シタル者ト爲ス然ルニ四十三番ヨリ三倍ノ罰金ノ出處ヲ質問シ而シテ内閣委員ノ之ニ答辨スル所ハ大ニ本官ノ所見ト異ナルニ似タリ本官ハ石數ノ明白ナラサル以上ハ其罪ハ成立セサル可ク石數ノ明白ニシテ始メテ其罪ハ成立ス可キ者ト信ス故ニ原案ヲ是認ス

○議長 他ニ發議ナクンハ二十二番ノ修正說ノ決ヲ取ン

○井田四十番議 取決ニ先タチ内閣委員ニ辨明ヲ請フ可キ者アリ本官ハ第一讀會ニハ缺席シタレトモ内閣委員ハ「シ」ト爲スモ「謀リ」ト爲スモ熱心ニ抗論セスト言ヒシモ十一番ノ如ク見解ヲ下セハ意義深重ニシテ石數ノ如何ニ關スルヲ以テ内閣委員ハ必ス熱心ニ原案ヲ

維持セサル可ラサルニ似タリ故ニ此疑點ノ場合ニ於テ取決セラ
レハ本官甚タ向背ニ惑フ故ニ本條ノ旨意ハ内閣委員ノ辨明セシ如
キカ將タ十一番ノ論難セシ如キカ更ニ一言ヲ煩ハス

○番一渡正 四十番ニ答フ「謀リ」ノ文字ニ關シテハ某議官及ヒ議

長ノ質問ニ答ヘタル如ク第三條ノ順序ヲ經スシテ輸出シタルト輸
出セントスルトノ區別ニシテ倉庫内ニ在リ若クハ内密ノ相談ヲ爲
ス等ノコトハ包含セサルナリ故ニ其區別ハ明白ナラン

○四十番井田 番外一番ハ倉庫内ニ在ル者ハ「謀リ」ノ文字中ニ包含

セスト云フモ若シ然ラハ原案ノ精神ト背馳セン既ニ船積セル以上
ハ「謀リ」ノ部内ニ入ル可キニ非ス謀リトハ倉庫内ニ在ル酒類ヲ輸
出セン爲メニ密ニ手代番頭等ニ相談ヲ爲シ某日ノ夜間暗ニ乗シ船

積セントスル如キヲ謂フナラン此等ノ場合ハ内閣委員ハ之ヲ如何
セントスル耶

○番一渡正 四十番ニ答ヘン畢竟此規則ハ第三條ノ順序ヲ經サル

者ニ關ス彼ノ倉庫内ニ在ル如キハ其犯則ナルヤ將タ犯則ナラサル
ヤ明白ナラス故ニ本條ハ免狀ヲ受ケスシテ那覇港ヨリ他府縣ニ輸
出セントスル船載酒類ヲ提警スルニ在ルナリ

○三十五番楫取 犯則ヲ謀ルハ倉庫内ニ在ル者ト雖モ亦之ヲ謀ルト

謂ハサル可ラス那覇港ハ暫ク措キ凡ソ倉庫納屋等ハ大抵海岸ニ建
造スル者ニテ此酒樽ハ輸出シ此酒樽ハ輸出セスト言ヒテ免狀ヲ請
フ有ンニ此場合ニ於テハ容易ク脱稅輸出ヲ謀ルヲ得ン故ニ船積セ
ル者ニ限ルト爲セハ犯則ニ便ヲ與ヘ之カ提警ヲ爲ス極メテ難カラ

ン内閣委員以テ何如ト爲ス

○十三番 英作 麟祥 本官ハ本條ヲ刑法ノ未遂犯罪ノ例外法ト見タルニ番
 外一番ハ第三條ノ制規ヲ犯ス者ナリト辨明セリ果シテ然ラハ第七
 條ノ「第四條ノ届出ヲ爲ササル者ハ云云」ト言ヘルニ倣ヒ「第三條ヲ
 犯ス者ハ云云」ト言フヲ簡明ナリトス何ソ「出港税ヲ納メスシテ酒
 類ヲ他府縣ヘ輸出セント謀リ」ト言ヘル如キ長文ヲ要セン此條ノ行
 文ノ如クナレハ倉庫内ニ於テ手代水夫等ト密ニ輸出センコトヲ相
 談スル如キヲモ包含スル者ト解セサル可ラス故ニ第三條云云ノ辨
 明ハ本官之ヲ信スル能ハス時己ニ正午ニ近ケレハ午前ノ議事ハ此
 ニ止メ暫ク熟考ノ餘地ヲ與ヘンコトヲ望ム

○四十三番 柴原 和

只今十一番ノ解説セル如クナレハ原案ニシテ可ナ

リ即チ倉庫内ニ於テ内密ニ相談スル如キ其石數ヲ算ス可ラサルニ
 因リ無罪放免ト爲スナラン然ラハ假令何等ノ手段ヲ相談スルモ石
 數明白ナラサレハ無罪ニ歸ス可シ是レ「謀リ」ノ文字ニ疵病アリト
 云フ所以ナリ番外一番ハ那覇港ノコトヲ言ヘトモ第四條第二項ニ
 ハ「那覇港外ノ地方」云云ノ明文アリ故ニ那覇港ニノミ船ヲ寄ルニ
 止ラス十一番ノ言ノ如クセハ却テ有罪者ヲ無罪放免ニ付スルノ失
 當ヲ致スニ至ラントス

○議長 時己ニ正午ナレハ一旦散會シ午後ニ續會ヲ開カン散會セヨ
 正午閉場

午後ノ開會ハ翌十一日ニ延ヘリ

元老院會議筆記 明治十七年十一月十一日

禁傍聽

○第四百五十三號議案

沖繩縣酒類出港
稅則制定ノ儀 第二讀會 十日ノ續會

議長 佐野常民

出席議員

- | | |
|-----|-------|
| 一番 | 上杉 茂憲 |
| 二番 | 田邊 太一 |
| 四番 | 籠手田安定 |
| 五番 | 東久世通禧 |
| 八番 | 神田 孝平 |
| 九番 | 鍋島 幹 |
| 十二番 | 河田 景與 |

十三番	箕作麟祥
十七番	長松幹
十八番	西周
二十番	林友幸
二十一番	榎村正直
二十二番	三浦安
二十三番	大鳥圭介
二十四番	長岡護美
二十五番	大久保一翁
二十七番	渡邊清
二十八番	伊丹重賢

三十番	津田真道
三十三番	宮本小一
三十四番	神山那廉
三十五番	楫取素彦
三十七番	大給恒
三十九番	橋口兼三
四十番	井田讓
四十一番	楠本正隆
四十三番	柴原和
四十四番	福原實
四十五番	青山貞

内閣委員 番外参事院議員 渡 正元

同 番外参事院員外議員補目賀田種太郎

午前第九時四十五分開場

○議長 本日ハ第四百五十三號議案昨日ノ續會ヲ開ク

○番外番 渡正 本案ハ第一條ヨリ第五條マテ容易ニ議場ヲ經過セシ

ニ第六條ニ至リ「輸出セント謀リ」ト言ヘル文字ニ對シ各議員ノ意見ヲ異ニセルヨリ許多ノ議論ヲ起生シ殆ント究極ナキニ至レリ各議員中或ハ内閣委員ノ説明如何ニ關セス本官ハ此ノ如ク解釋スト云ヒ或ハ現行刑法第百十一條ノ旨趣ニ基キ陰謀ノ謀ノ字ナリト解セル有リ然ルニ本條ノ謀ノ字ハ此ノ如キ深奥ノ意義アルニ非ス即チ明治十年ニ發布セル北海道諸產物出港稅則ニ輸送セント謀ルト

言ヘルニ同シ故ニ刑法ノ旨趣ニ據テ解スル無キヲ要ス本日ハ昨日ノ續會ナルヲ以テ各議員ノ參考ニ供セン爲メニ本條ノ旨趣ヲ陳辯スル此ノ如シ請フ之ヲ諒セヨ

出席 十四番 稅所 篤

○四十番 井田 昨日二十二番議員ハ本條ノ「謀リ」ノ字ヲ削リテシノ

字ニ改メント云ヘリ本官ハ此條ニ疑團ヲ懷クヲ以テ内閣委員ノ辯明ヲ請ヒシニ「謀リ」ト爲スモシト爲スモ事ニ於テ障礙セスト答ヘタレトモ某議員ノ解釋セシ如クナレハ決シテ輕輕ニ看過スル能ハス某議員ハ曰フ此條ニ於テハ唯其輸出セントスル者ニ止マラス倉庫中ニ在ル酒類ト雖モ密ニ輸出セントスル念慮アレハ罰ニ處セサルヲ得スト故ニ本官ハ遂ニ疑團ヲ釋クニ由シ無ク取決ニ際シテ起

立ヲ表スルニ苦ミシニ只今内閣委員ノ詳説ヲ聽キテ始メテ了解セ
リ本官ノ精神ハ二十二番ノ輸出セントシト改ムル説ニ傾向スルモ
其修正ハ未タ周密ナラサル有ルヲ以テ之ニ同意セス第三讀會ニ於
テ別ニ修正説ヲ提出セントス今之ヲ豫陳スレハ出港税ヲ納メス
シテノ九字ヲ削除シ之ニ換ルニ第三條ノ手續ヲ爲サス密ニ積載
ノ十五字ヲ以テセントスル是ナリ

出席 二十九番 細川潤次郎

○三十五番 輯取 素彦 本條ハ其區域ヲ廣濶ナラシメンコトヲ要ス昨日某
議官ノ陳辯セシ如ク此條ノ加罰ノ旨趣ヲ既ニ港内ニ積出セル者ニ
限ルトキハ脱税ヲ圖ル者ノ奸策ヲ防制スル能ハス故ニ未タ積出サ
スト雖モ其犯則ノ形迹分明ナルトキハ固ヨリ處罰セサル可ラス且

凡ソ人民ノ倉庫ハ其構造素ト堅牢ナラサレハ提轄ノ方法モ亦隨テ
嚴密ナラサルヲ得ス否ラサレハ遂ニ奸策ヲ防制スル能ハス是ヲ以
テ證據判然ナレハ倉庫内ニ在ル者ト雖モ處罰セサル可ラス故ニ
「謀リ」ノ文字ヲ置クヲ要セス本官ハ益、二十二番ノ修正説ニ左袒セ
サルヲ得サルナリ

○二十二番 三浦 安 内閣委員ハ刑法ノ「謀リ」ノ文字ニ準據スルヲ須ヒ
スト辯明セリ然レハ十三番ノ説ハ穿鑿ニ過クルニ似タリ然レトモ
罰則ヲ設ルハ固ヨリ刑法ノ旨趣ニ基クヲ緊要ナリトス顧フニ刑法
第百十一條ハ未遂犯ノ事ニ係リ其文ニ據レハ罪ヲ犯サンコトヲ謀
ルト雖モ未タ其事ヲ行ハサル者ニハ刑ヲ科セス又謀ノ字ノ場合ヨ
リ一層進ミタルトキハ其豫備ヲ爲スト言ヘリ是亦單ニ豫備ヲ爲ス

ニ止マリ未タ其事ヲ行ハサル者ニハ刑ヲ科セス又其第百十二條ニハ「罪ヲ犯サントシテ」ト言ヘリ而シテ第百十一條ニ於テハ「謀ノ字ヲ輕ク視タリ然ルニ本條ハ逃稅犯ニシテ輕罪ト云フニ非サレハ其加罰スルト否トハ裁判官ノ意見ニ在ルモ謀ルニ止マル者ヲ處罰スルハ苛酷ナルニ似タリ今此ニ甲乙協議シ酒類ヲ船載スル準備ヲ爲シ既ニ輸出セントスルハ刑法ニ於テ「犯サントシ云々」及ヒ「犯サントシテ未タ遂ケサル者云云」即チ第百十二條第百十三條ニ該當ス又第百十八條ニ危害ヲ加ヘントシタル云云ト言ヘルモ同義ナリ本條ノ「謀リ」ノ文字ハ全ク刑法第百十二條第百十三條ノ精神ヲ含ム者ナレハ「謀」ノ字ヲ置クハ穩當ナラス寧ロセントシト改ムルヲ以テ内閣立案ノ旨趣ニ適合スル者ト思考ス

○十三番 箕作麟祥

本官ハ昨日刑法第百十一條ヲ援引セシカ是レ固ヨリ第百十一條ノミナラス第百十二條及ヒ第百十三條モ參考セシナリ然ルニ内閣委員ノ説明ニ據レハ本官ノ見解ハ内閣立案ノ精神ト背馳スルニ似タリ然レトモ罰則ハ到底刑法ヲ根基ト爲ササル可ラサルヲ以テ内閣ニ於テモ必ス準率ヲ此ニ取レリト思考セシニ今其然ラサルハ實ニ本官ノ意想ノ外ニ在リ本官ハ初ヨリ本條ハ内閣ニ於テモ特別ノ嚴法ヲ設ケ刑法ニ於テハ處罰セサル謀リ又ハ豫備ヲ爲ス者ニモ處罰スルコトト解セシナリ然レトモ内閣ニ於テ決シテ刑法ヲ反顧スルヲ要セスト云ハハ已ムヲ得サルノミ問題說ノ發議者ハ本條ノ事犯ヲ輕罪ニ非スト云フハ誤レリ是レ純然タル輕罪ニ入ル可キ者トス

○外三番目賀田 本條ノ「謀リ」ト言ヘルハ刑法ノ未遂犯ヲ指スニ非
 ス即チ既ニ積出サントスル形跡ノ顯ハレタル者ヲ謂フ故ニ若シ出
 港税ヲ納メスシテ航行スル如キ有ラハ必ス其船舶ノ到達セシ地方
 ニ於テ處罰スルナリ決シテ倉庫内ニ在ル者ニ及ホスニ非ス因テ主
 務省ノ草案ヲ朗讀シ以テ參考ニ供セン曰ク「出港税ヲ納メスシテ
 酒類ヲ積載セ各府縣ヘ輸送セント謀リ又ハ各府縣ヘ陸揚セシモノ
 ハ出港税金高三倍ノ罰金ニ處シ尙其酒類ヲ沒收ス賣捌キタルモノ
 ハ其代價ヲ追徴ス

○二十三番大鳥圭介 「謀リ」ノ文字ニ關シ昨日以來許多ノ論議ヲ生セリ
 今内閣委員ノ説明ヲ聞ケハ此文字ノ本條ニ適當ナラサルヲ覺フ若
 シ此文字ノ意義ヲ視テ十三番ノ解釋セル如ク倉庫内ニ在ル者ニモ

及ポスト爲セハ可ナルモ番外ノ説明及ヒ主務省ノ原案ニ據レハ本
 條ハ全ク北海道諸産物出港税則ニ準據セル者ナリ然ルニ該税則ニ
 ハ分明ニ積載ノ文字ヲ掲クルモ本條ニハ其文字ヲ掲ケス而シテ其
 旨意ヲ包含セシムル者ノ如シ然レハ則チ本條ノ謀ノ字ハ謀議スル
 等ノ事ニ非ス輸出セントスル者ヲ謂フナレハ益此文字ノ適切ナ
 ラサルヲ知ル故ニ二十二番ノ説ク如ク輸出セントシト修正スルヲ
 得タリトス

○二十一番正直 本官ハ先キニ原案ヲ是認セシモ内閣委員ノ説明及
 ヒ主務省ノ上申案ニ據テ謀ノ字ノ穩當ナラサルヲ知リ四十番ノ豫
 陳説ニ左袒セントス元來主務省ノ上申案ニハ船積ノ文字アリテ意
 義分明ナルニ内閣ニ於テ謀ノ字ニ改メシハ何如ナル故ニ由ルカ内

閣委員ハ必ス其故ヲ知ルナラン敢テ辯明ヲ煩ハス然レトモ内閣委員ニシテ此改正ハ別ニ意義アルニ非スト主張セハ本官復タ何ヲ言ハン

○議長 二十一番ニ告ク只今番外ノ辯明ヲ請ヘルモ既ニ番外ヨリ數回辯明ヲ爲シタル有レハ本席ハ更ニ辯明ヲ請フヲ要セスト思考ス然ルニ更ニ質問スルハ内閣ニ於テ何ヲ以テ船積ノ文字ヲ改竄シタルヤヲ知ラント欲スルニ在ルカ

○二十一番 榎村正直 然リ其文字ヲ改メタル理由ヲ問フナリ

○番目賀田種太郎 別ニ理由アルニ非ス本官ノ思考スル所ヲ以テスレハ内閣ハ主務省ヨリ上申セル旨趣ヲ採用シ北海道諸産物出港税則ニ準據シテ創案セシノミ但タ該税則ノ制定ハ明治十年ニシテ未タ

刑法ヲ制定セサル時ニ係ルヲ以テ文理或ハ妥貼ヲ缺クカ故ニ本案ノ如ク改正セシナラン

○二十二番 三浦安 只今ノ番外ノ説明ヲ得テ「謀リ」ナル文字ノ意義ハ既ニ明瞭ナリ内閣委員ノ言ニ北海道諸産物出港税則ハ未タ刑法ヲ制定セサル時ニ制定セルヲ以テ其文意或ハ妥貼ヲ缺クト云フハ實ニ然リ本案ノ罰則ニ「謀リ」ナル文字ヲ置クトキハ到底刑法ノ未遂犯ナル三層ノ原則ニ根據スル者タルヲ免レス故ニ縱令ヒ船積ノ文字ヲ加フルモ其下ニ此文字ヲ置ケハ刑法未遂犯第一層ノ原則ニ退却シ罰則ノ施行ニ窒礙スル無キヲ得ス故ニ此文字ハ削除スルヲ可トス

○四十三番 柴原和 内閣委員ノ説明ニ據レハ北海道諸産物出港税則第

十條ニ本クト云フモ本官ノ憂フル所ハ謀ルト云フノミニ止メハ酒類ノ石數分明ナラスシテ三倍ノ罰金ヲ課スル標目ヲ得サルニ在リ若シ船積ノ文字ヲ置ケハ謀ルト云フモ石數ヲ知ルニ難カラス本官ノ二十二番ノ動議ヲ賛成セシハ此カ爲メナリ若シ夫レ此動議ノ不幸ニシテ消滅ニ歸セハ更ニ四十番ノ豫陳說ニ同意セントス

○二十八番 伊丹重賢 本官ハ初メ本案ヲ可認セシモ許多ノ説明ヲ聽クニ及テ反テ疑團ヲ生セリ内閣委員ノ辯明ニ據レハ此條ノ輸出ト云フハ船載セシ者ヲ謂フト然レトモ此條ノ謀リナル文字ヲ玩味スルニ船載ノ意義ヲ包含スルヲ見出スル能ハス豫備ノ者ニマテ罰ヲ及ホスニ似タリ若シ内閣委員ニ於テ本官ノ解釋ヲ謬誤ト見做サハ此文字ハ必ス修正セサルヘカラス

○三十番 津田眞道

昨日以來本條ノ謀ノ字ニ關シ許多ノ紛議ヲ生セシモ本官ハ此ノ如キ深奥解シ難キ者トハ思考セス内閣委員ノ意モ亦然ルニ似タリ某議官ハ謀リトノミナレハ三倍ノ罰金ヲ課スル標目ヲ得スト云フモ罰金ヲ課スルニハ固ヨリ判然タル形迹アルニ非サレハ能ハス倉庫内ニ存シ又ハ胸裏ニ藏秘スル者ハ何ヲ以テ罰金ヲ課スルヲ得ン此謀ノ字ハ決シテ謀殺又ハ謀ヲ帷幄ノ中ニ運ラスト云フ如キ意義アルニ非ス單ニ欲スト云フニ過キス故ニ本官ハ謀リト爲スモ輸出セントシト改ムルモ事ニ於テ毫モ障碍ヲ見スト信ス若シ夫レ犯罪ノ形迹ノ判然明白ナルヤ否ヤニ者テハ主任者ノ判決ニ任セテ可ナリ

○議長 二十二番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十三人

○議長 同意者少数ナルヲ以テ二十二番ノ修正説ハ消滅ス

○四十一番楠本正隆 本官試ニ一説ヲ提出セン即チ酒類ヲ船積シ他府縣

ヘ輸出セント謀リト改ムル是ナリ其理由ハ只謀リト云フノミニシ

テハ其意義明瞭ヲ缺キ三倍ノ罰金ヲ課スルニ便ナラス船積ト爲セ

ハ其輸出石數判然ニシテ標目ヲ取ルニ便ナルヲ以テ判官ノ疑惑ヲ

惹クノ憂ヒ無シ且此船積ナル文字ハ第四條ノ例文ニ依據スルナリ

○二十一番榎村正直 賛成

○一番上杉茂憲 「謀リ」ノ文字ニ關シテハ各官ノ見解ニ淺深ノ差別アル

ヨリ遂ニ滿場ノ議論ヲ生シタルモ番外ノ辯明ニ因テ其意義已ニ明

瞭ナリ唯其措辭未タ完全ナラサリシニ四十一番ノ修正説ヲ得テ始

メテ完全ナルヲ得タレハ喜テ之ヲ賛成ス

○四十番井田讓 本官ハ過刻修正ノ意見ヲ豫陳セシモ四十一番ノ修正

ハ本官ノ豫陳セル所ニ比スレハ更ニ明瞭ナルヲ以テ豫陳説ヲ收銷

シテ四十一番ヲ賛成ス

○議長 四十一番ノ修正説ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○二十七番渡邊清 本官ハ現問題ニ同意セス船積ノ文字ヲ置クトキハ

輸出セント謀リテ未タ出港セサル酒類ニシテ石數ノ判然ナル者ヲ

罰ニ處セサルニ似タリ那波港ノ如キハ船積スレハ速ニ出港シ港内

ニ碇泊スルハ甚タ希レナリ若シ船積スルノ外ハ其事情ノ判然ナル

者モ處罰セスト爲セハ恐クハ奸商ノ詐偽ヲ防制スル能ハサラン此

ノ如ク思考スルトキハ原案ヲ可認セサルヲ得ス矧シテ裁判官ニシ

テ證跡ノ明白ナラサル者ヲ罰スルハ必無ノ事ナルヲヤ

○四十三番 柴原和

四十一番ノ動議ハ尤モ事理ニ適合セリ然ルニ二十
七番ノ此好修正ヲ採ラサルハ何ソヤ原案ノ如クナレハ本官等ノ苦
慮スル三倍ノ罰金ヲ科スルニ標準ヲ取ル能ハス若シ已ニ船積シタ
ルニ非サレハ何ヲ以テ石數ヲ計算スルヲ得ン故ニ謀リヲ改メテ船
積ト作スハ却テ内閣ノ此條ヲ置ル精神ニ協ハントス

○十三番 笑作麟祥

四十一番ノ修正說ハ甚タ不可ナリ若シ船積ト爲スト
キハ其尙ホ埠上ニ殘留セル者ハ罰セサルヤ今此ニ幾千石ノ酒類ヲ
輸出セントスル者アリ半ハ已ニ船積シ半ハ尙ホ埠上ニ在リトセン
ニ判官ハ其犯罪タルヲ認ムト雖モ船積ノ文字ニ拘牽セラレ埠上ニ
在ル者ニ向テ罰ヲ加フル能ハサラントス原案ノ如ク「謀リ」ト爲セ

ハ判官ノ意見ヲ以テ埠上ニ在ルト船積シタルトヲ問ハス犯罪ト認
ムルトキハ之ヲ罰スルヲ得ン且凡ソ法律ハ簡明ナルヲ要ス故ニ修
正說ノ如クナラハ本條ノ如キ長文ヲ要セス唯第三條ヲ犯シタル者
ハ云云ト言フノミニシテ足レリ此ノ事理アルヲ以テ本官ハ現問題
ニハ同意セサルナリ

○八番 神田孝平

本官モ四十一番ノ修正說ニハ同意セス縱令船積ノ字ヲ
添フルモ下句ニ謀ノ字ヲ置クトキハ意義ニ於テ差異ナキカ如シ寧
ロ現修正ハ無益ナラン

○四十三番 柴原和

十三番ハ現問題ヲ駁難シテ船積ノ文字ヲ加フルト
キハ港埠ニ在ル者ハ如何スルト云フモ已ニ港埠ニ搬出スルトキハ
船積ヲ爲セルト同一ナレハ之ヲ罰スルニ何ノ支障カ之レ有ン船積

ノ文字ハ見ニ北海道諸産物出港税則中ニ之ヲ掲ケリ故ニ十三番ノ
 駁難ハ本官ノ疑訝ニ堪ヘサル所ナリ十三番ハ北海道諸産物出港税
 則ヲモ改正スル意度ナリトセハ可ナルモ問題説ノ如クスルトキハ
 港埠ニ在ル者ハ罰スルヲ得サルコトハ決シテ之レ無ラン八番ハ船
 積ノ文字ヲ挿入スルモ無益ナリト辯スレトモ此文字ヲ置ケハ石數
 ヲ甄別スルヲ得テ罰金ヲ課スルニ便ナリ彼ノ北海道諸産物出港税
 則ニ船積ノ文字ヲ置キシモ此カ爲メノミ前ニ内閣委員ノ辯明セシ
 如ク本條ノ精神ハ全ク北海道諸産物出港税則第一條ニ根據セル者
 ナレハ愈ヨ船積ナル文字ノ緊要ナルヲ知ルナリ

○二十二番^{三浦安} 現問題ノ發議者ニ質問セン本條ノ「謀リ」ノ文字ハ
 船積ノミニ冒スルカ輸出云云マテニ冒スルカ

○四十一番^{楠本正隆}

二十二番ニ答フ本官ハ酒類ヲ船積シ而シテ輸出セ
 ント謀ルト上下ニ分斷スルノ意ヲ以テス是レ北海道諸産物出港税
 則モ同一ナリ某議官ハ船積ト爲ストキハ區域甚タ狭ク將サニ船積
 セントシテ猶ホ港埠ニ在ル者ハ處罰ヲ免レント駁難スルモ其陸上
 ニ在ル者ハ素ヨリ罰ヲ加ヘサルハ北海道諸産物出港税則ニ據テ考
 フルモ知ル可キノミ然ルヲ沖繩縣ニ在テハ海陸共ニ罰ヲ加ヘヨト
 云フハ老練ナル議官ノ言ニ似サルナリ本官ハ意ヲク船積ノ後ニ非
 サレハ罰金ノ標的ヲ取ルニ由シ無シト

○二十二番^{三浦安}

發議者ノ答辯セシ如ク船積シ而シテ輸出セント謀
 リト爲ストキハ十三番ノ駁難セシ如ク支障ヲ致サン又「謀リ」ノ文
 字ヲ船積ニ冒スルトキハ八番ノ駁難セシ如ク冗贅ニ似タリ是レ北

海道諸産物出港税則ニ準據スト云フモ其發布ハ新刑法定以前ニ係リテ未タ精密ナラサル者間マ多ク素ヨリ稱シテ金科玉條ト爲スヲ得ス且「謀リ」ノ文字ヲ置クトキハ處罰ノ區域廣濶ニ過ク本官ハ處罰ノ區域ヲ狹隘ナラシメントスル意見ナレハ之ヲ他ノ文字ニ改メント欲ス畢竟北海道諸産物出港税則ニ準據スルカ故ニ此支障ヲ來スナリ若シ此條ヲ新創スルトキハ謀ノ字ヲ置カサルモ何ノ妨カ之レ有ン故ニ「謀リ」ヲ改メテ輸出セントシト爲サントス且此「謀リ」ノ文字ハ刑法ノ原則ニ比對スルニ甚タ穩當ナラス此文字ヲ掲ル爲メニ確證ナキモ罰ヲ及ホスノ弊ヲ致サン故ニ本官ハ現問題ノ成立セザランコトヲ望ム

○四十番 井田 議

本官ハ現問題賛成者ノ一人ナリ現問題ハ事理明瞭ナ

ル者ト思考セシニ意外ニ反對說ヲ來セリ思フニ沖繩縣ニハ許多ノ島嶼アレハ物品ヲ此ヨリ彼ニ輸送スルニハ必ス船載セサル可ラス故ニ船積スルモ縣内ニ往來スルハ素ヨリ此條ニ關係セス此條ハ船載シテ他縣ニ輸出セントスル者ヲ言フナリ十三番ハ陸上ニ在ル者ハ何如ト詰問スレトモ其陸上ニ在ル者ハ素ヨリ處罰セサルノミ横濱關稅ノ如キ又然リ八番ハ「謀リ」ノ文字ニ疑團ヲ懷クモ素ヨリ倉庫内ニ在ル者ニ及ホスニ非ス實ニ無用ノ苦慮ト謂フ可シ二十七番ハ「謀リ」ノ文字ヲ掲レハ黠商ノ奸策ヲ招カンコトヲ憂フレトモ是レ營業稅ノ部分ニ屬ス此等ノ事項ヲ把テ此明白ナル修正說ヲ駁難スルハ解ス可ラス願クハ速ニ問題ニ決センコトヲ

○四十三番 柴原 和

十三番ハ港埠ニ在ル者ハ何如ニ處置スルヤト詰問

セリ本官ハ陸上ニ在ルモ犯罪ノ分明ナル者ハ素ヨリ處罰セントス例ヘハ百石ノ酒類ヲ船積セント謀リ五十石ハ已ニ船積シ五十石ハ猶ホ陸上ニ在リトセンニ其陸上ニ在ルハ即チ犯罪ノ形迹アル者ナリ二十二番ハ「謀リ」ノ文字ニ深奥ノ見解ヲ下セトモ本官ハ之ニ反ス二十二番ハ北海道諸産物出港税則ハ完全ナラサル者ナレハ今日之ニ準據ス可ラスト云フモ是レ目今猶ホ實行セルニ非スヤ然レハ則チ之ニ準據スルモ何ソ害セン本官ハ該税則ヲ看テ此ノ如ク疎漏ニシテ取ルニ足ラサル者トハ做ササルナリ

○十三番

笑作
麟祥

敢テ辯ヲ好ムニ非サレトモ聊カ一言セン現問題ノ完全ナラサルハ僅僅一二字ノ添刪ナルニ發議者賛成者已ニ見解ヲ異ニセルヲ以テスルモ之ヲ證ス可シ發議者及ヒ賛成者ノ言ヲ聞クニ

一ハ船載セサレハ罰セスト云ヒ一ハ船載セントスル形迹ノ判然ナレハ陸上ニ在ルモ處罰スト云ヘリ顧フニ知識ニ富メル議官諸君ニシテ猶ホ此ノ如キ見解ヲ異ニスルヲ以テスレハ下民ノ疑惑ヲ生スルヤ推知ス可シ某議官ハ十年發布ノ北海道諸産物出港税則ヲ援引スレトモ是レ既ニ述タル如ク當時ハ未タ刑法ヲ制定セサル時ナレハ該税則モ隨テ精密ノ者ナラス今日ニ於テ之ニ準據スルハ不可ナリ四十一番ハ船積ノ文字ヲ除去スレハ北海道ト沖繩縣ト法律ヲ異ニシ日本國內ニ二様ノ法律ヲ存スルハ不可ナリト云フモ沖繩縣ハ素ヨリ他縣ト同シカラス故ニ本官ハ二様ノ法律ヲ存スルモ支障ヲ見スト信スルナリ

○議長 四十一番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者八人

○議長 少數ナルヲ以テ四十一番ノ修正説ハ消滅ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者十四人

○議長 少數ナルヲ以テ第六條ハ消滅ス次條ニ移ル

書記官 森山 朗讀

第七條

第四條ノ届出ヲ爲サ、ル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○四十三番 柴原和 聊カ修正ノ意見ヲ提出セン本條ノ「五十」ノ十八拾

ニ作レリ然ルニ現行法ニ於テ拾ノ字ヲ用フルヲ見ス從來金錢ノ計算ニハ拾ノ字ヲ慣用セルモ刑法等ニハ十ノ字ヲ下セルニ似タリ故

ニ本條ノ拾ノ字ハ恐クハ誤寫ナラン敢テ内閣委員ニ質ス又本案第

一條ニハ沖繩縣ト言ヒ第五條ニハ縣下ト言フ前キニ内閣委員ニ質

セシニ別ニ意義アルニ非スト答ヘリ然レハ則チ兩條ヲ一定ニ出テ

シメン本官ハ共ニ縣下ト爲スヲ可ト認ム

○議長 内閣委員ニ問フ拾ノ字ハ果シテ誤寫ナルヤ

○外三番 目賀田 種太郎 拾ノ字ハ別義アルニ非ス現行刑法ニハ十ノ字ヲ用

ヒタルモ諸稅則等ニハ多ク拾ノ字ヲ用ヒタルヲ以テ之ニ倣ヘルナ

○議長 拾ノ字ノ誤寫ニ非サルハ内閣委員ノ言ニ依テ明瞭ナリ

○四十三番 柴原和 然レハ十ノ字ニ改メン内閣委員ハ稅則等ニ散見ス

ト云フモ是レ恐クハ數量ニ關スル所ニ用ヒシナラン規則文中ニハ

此字ヲ見ス舊幕府時代ヨリ大政維新ノ今日マテ貸借證文等ニハ拾ノ字ヲ慣用セリ是レ奸詐ヲ防カン爲メノミ

○四十一番 楠本正隆 賛成

退席

四十番

井田 讓

○議長 本條ノ拾ノ字ヲ十二改ムル動議ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○十三番 笑作麟祥 孰レニ從フモ可ナレトモ本官ノ携持スル酒類稅則暨

麴稅則ノ罰則ニハ拾ノ字ヲ用ヒタリ但シ何十條ト云フニハ拾ノ字ヲ用ヒス四十三番ハ何等ノ規則ヲ指スヤ解セサルナリ

○議長 四十三番ニ告ク船稅規則ノ罰則ニハ二拾圓云云即チ拾ノ字ヲ用ヒタルハ内閣委員ノ説明ノ如シ何如

○四十三番 柴原和 本官ハ誤認セシナリ提出シタル動議ハ收銷センコ

トヲ乞フ

○議長 各位モ聞ク如ク發議者ヨリ其說ノ誤認ニ出タルヲ以テ收銷センコトヲ乞ヘリ即チ收銷シテ可ナラント思考スレトモ其動議ハ已ニ問題ト爲リタレハ議場ノ公共物ト爲ス故ニ收銷ス可キヤ否ヤヲ衆議ニ問ハン異見アラハ發議セヨ

○議長 異議ナキヲ以テ收銷ス

○二十一番 榎村正直 第六條ノ次ニ一條ヲ加ヘント欲ス知ラス可ナルヤ

○議長 第六條ノ第二項ヲ加フルナレハ提出スル可ナリ若シ新ニ一條ヲ加フルナラハ本條議決ノ後ニ非サレハ不可ナリ

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ決ス

○二十一番 榎村正直 第六條ノ次ニ主任官吏ノ検査ヲ拒ムモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處スト云フノ一條ヲ置テ之ヲ第七條ト爲シ以下逐次ニ條目ヲ改メン此條ヲ置ク理由ハ第五條ニ主任官吏ニ於テ検査スルコトアルヘシト言ヒ而シテ其検査ヲ拒ム者ノ裁制ヲ設ケス故ニ其缺漏ヲ補フナリ

○二十三番 大鳥圭介 賛成ス第五條ニ罰則ヲ設ケサルハ缺漏ナリ然レトモ過日番外ハ普通刑法ニ依テ處分スト云ヘルモ現今ニ在テハ本規則中ニ罰則ヲ附スルヲ常トス故ニ第五條ニ對照シテ此ニ罰則ヲ掲クルヲ適當ナリトス

○一番 上杉茂憲 賛成

○議長 二十一番ノ動議ハ賛成者アリ問題ト爲ス

○外三番 目賀田種太郎 問題發議者ニ質問セン第五條ニ罰則ヲ附セサルハ過日モ辯セシ者ノ如シ敢テ問フ二十一番ノ之ヲ附スルハ何等ノ旨意ニ因テ然ルヤ

○二十一番 榎村正直 已ニ賛成者ノ詳細ニ辯明シタレハ此ヲ以テ了解セシコトヲ乞フ本官ハ再述セス

○議長 他ニ發議ナクハ取決セン第七條ヲ加フル動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十五人

○議長 正半數ナルヲ以テ例ニ遵ヒ本席之ヲ決シ第七條ヲ加フルニ決ス

書記官 森山 茂 朗讀

第八條

此規則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○議長 發議ナクハ取決セン本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ
總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本條ニ決ス
書記官 森山 茂 朗讀

第九條

前條々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乗組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○二十七番 渡邊 清 本條ニ少シク修正ヲ加ヘン其修正ハ「又ハ」ノ二字

ヲ削リ「乗組人」ノ三字ヲ「雇人」ノ下ニ入レ「及」ノ一字ヲ「乗組人」ノ上ニ入ルル是ナリ文章ノ布置ニ於テモ上ニ「及」ノ字アリテ下ニ又ト云ヘハ煩雜ニ似タリ又「所犯ニ係ルモノ」ト言ヘル「モノ」ノ二字ヲ削除セン其文案ハ家族雇人乗組人及囑託ヲ受ケタル者ノ所犯ニ係ルト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシト云フニ在リ

○議長 二十七番ノ修正說ハ賛成者ヲ得サルヲ以テ消滅ス

○議長 本條ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十八人

○議長 第二讀會ハ此ニ終ル

○番一 渡正 外元

本案ハ逐條容易ニ議決セシモ第六條ノ「謀リ」ノ文字

ニ許多ノ紛議ヲ生シ遂ニ原案修正案共ニ消滅スルノ不幸ヲ致セリ

然ルニ本案ハ内閣ニ於テモ急施ヲ要スルナレハ木日引續キ第三讀

會ヲ開カンコトヲ請求ス

○議長 内閣委員ノ請求セル有ルモ他ノ議案ヲ議スル計度ナルヲ以

テ第三讀會ハ明日之ヲ開カン散會セヨ

午後零時十五分開場

元老院會議筆記 明治十七年十一月十二日

禁傍聽

○第四百五十三號議案

沖繩縣酒類出港
稅則制定ノ儀

第三讀會

議長 佐野
常民

出席議員

- 一番 上杉 茂憲
- 二番 田邊 太一
- 四番 籠手田 安定
- 五番 東久世 通禧
- 六番 野村 素介
- 七番 海江田 信義
- 八番 神田 孝平

九番	鍋島	幹
十一番	津田	出
十二番	河田	景與
十三番	箕作	麟祥
十七番	長松	幹
十八番	西	周
二十番	林	友幸
二十一番	榎村	正直
二十二番	三浦	安
二十三番	大鳥	圭介
二十五番	大久保	一翁

二十七番	渡邊	清
二十八番	伊丹	重賢
三十三番	宮本	小一
三十四番	神山	郡廉
三十五番	楫取	素彦
三十七番	大給	恒
三十九番	橋口	兼三
四十番	井田	讓
四十一番	楠本	正隆
四十三番	柴原	和
四十四番	福原	實

四十五番 青山 貞

内閣委員 一番外 參事院議官 渡 正元

同 二番外 參事院議官補 若山 儀一

午前第九時四十分開場

○議長 第四百五十三號議案ノ第三讀會ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

布告案

沖繩縣酒類出港稅則左ノ通制定シ本年 月 日ヨリ施行ス

○八番 神田 孝平 布告案中「本年」ノ本ノ字ヲ削除セン昨日内閣委員ノ言

ヲ聞クニ本案ハ急施ヲ要スト然ク急施ヲ要スト云フモ本年ノ餘ス所ハ僅僅五十日ニ足ラス然レハ則チ印刷時間到達日限ヲ扣除セハ

其餘ス所ハ幾何ソヤ故ニ若シ原案ニ從フトキハ人民ノ未タ周知セサルニ早ク既ニ本案ノ軛下ニ立タサルヲ得ス此ノ如キハ立法ノ旨意ニ非ス又他ノ法律ニ比シテ苛酷ナリト謂ハサル可ラス竊ニ思フ本案ノ起草ハ數月前ニ在リシヲ以テ原案ノ如ク本年ト掲ケタルナラン本官ハ本年ニ布告スルモ實施ハ明年六七月ノ交ニ於テセンコトヲ望ム若シ原案ニ從フテ議定上奏スルモ到底本年ニ施行シ得ヘキニ非サレハ此一字ノ爲メニ更ニ本院ノ檢視ニ付セララルノ煩ヲ致サン是レ修正ノ理由ナリ幸ニ定數ノ賛成ヲ得テ問題ト爲ランコトヲ望ム

○二十五番 大久保 一翁 賛成

○六番 野村 素介 賛成

○二十一番 榎村正直 賛成

○二十番 林友幸 賛成

○十七番 長松幹 賛成

○議長 八番ノ修正ハ賛成者定數ニ滿ルヲ以テ問題ト爲ス

○四十三番 柴原和 本官ハ原案ヲ是認ス竊ニ記ス曾テ戒嚴令ノ本院ノ議定ニ付セララルルヤ恰モ本案ノ如ク「本年月日」ノ文字ヲ掲ケリ當時年末ニ際シタレハ本年ノ字ヲ削ル可シト論スル議官アリシモ畢竟其施行ノ順序ハ行政官ノ意度ニ在ル者ニシテ素ヨリ立法官ノ容喙ス可キニ非ストシテ削除論ハ議場ニ排斥セラレタリ故ニ本案ノ施行モ亦十八年一月一日ヨリスルモ何年月日ヨリスルモ敢テ本院ノ關係ス可キ無キナリ

○議長 八番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者十人

○議長 少數ナルヲ以テ八番ノ修正説ハ消滅ス本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

沖繩縣酒類出港稅則

第一條

沖繩縣ヨリ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキハ出港稅トシテ酒類壹石ニ付金三圓ヲ賦課ス

○番一 渡正 本會ハ第三讀會即チ逐條確定議決會ナルヲ以テ各位ノ參考ニ供スル爲メニ一言セン抑モ第二讀會ニ於テ原案第六條ニ對スル種種ノ修正說ハ悉ク消滅シ原案モ亦自然ニ消滅シ今ヤ全ク其痕ヲ留メサルノ不幸ニ遭ヘリ然ルニ此條ハ各位モ知ル如ク實ニ本案中ノ眼目ニシテ第一讀會以來各位モ其精神ニ對シテハ毫モ間然スル無ク唯其行文ノ穩安ナラサル爲メニ益之ヲ流暢ナラシメントスル深切ノ注意ヨリシテ却テ此不幸ヲ來セシノミ其レ然リ豈之ヲ廢棄ニ付ス可ケンヤ本官ト雖モ行文ヲシテ益、完全明晰ナラシムルハ素ヨリ企望スル所ナレトモ之カ爲メニ消滅ニ歸セシムルハ遺憾ニ堪ヘス願クハ各位ノ前陳ノ理由ヲ領シテ原案第六條ノ精神ヲ本案ニ留存セシメンコトヲ

出席 二十九番 細川潤次郎

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス次條以下第二讀會ニ異論ナカリシ者ハ本會ノ定則ニ拘ラス或ハ連帶シテ議決ニ付スル有ル可シ

書記官 森山 朗讀

第二條

出港稅ヲ徵收スルタメ那覇港ニ船改所ヲ設置ス

第三條

荷主ハ酒類ヲ他府縣へ輸出スルトキ出港稅ヲ船改所ニ納メ船積免

狀并領收證ヲ受ケ船積スヘシ

第四條

船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ船改所ニ届出ヘシ

那覇港外ノ地方ヨリ直ニ出航スルトキハ其地方役所ニ届出ヘシ

第五條

沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ検査スルコトアルヘシ

但其官吏ハ主任官タルノ證票ヲ携帯スヘシ

○二十七番 渡邊清

第五條中「沖繩縣下」ノ「下」ノ字ヲ削除セン此文字タ

ル第二讀會ニハ異論ナカリシモ他條ニハ沖繩縣ト言ヒ獨リ此條ニ

沖繩縣下ト言フトキハ人民或ハ第五條ヲ視テ縣廳所在ノ地ト解スル無キヲ保セス特ニ第四條第二項ニ「那覇港外」ノ字句アルヲ以テ此條ノ「下」ノ字ヲ削除セサレハ其彌々疑惑ノ媒介ト爲ルヲ信スルナリ

○二十九番 細川潤次郎 賛成

○八番 神田孝平 賛成

○二十一番 榎村正直 賛成

○三十三番 宮本小一 賛成

○十三番 箕作麟祥 賛成

○議長 二十七番ノ動議ハ定數ノ賛成者アルヲ以テ問題ト爲ス

○四十三番 柴原和 本官ハ原案ヲ是認ス既ニ第一讀會ニ於テ獨リ第五

條ニ縣下ト掲クル所以ヲ内閣委員ニ質問セシニ偶然ニ削除ヲ忘却シタルナリト答ヘリ故ニ第二讀會ニ於テ修正セント欲セシモ退テ考フルニ原案却テ用意ノ周到ナルヲ曉レリ即チ其出港スル船舶ニハ他縣ノ船籍ニ屬スル者モ亦之レ有ルカ爲メニ本縣ト他縣トノ船舶ヲ問ハス一ニ沖繩縣下ヨリ出港スル者ト云フノ意味ヲ爲ス人民或ハ縣下トハ縣廳ノ在ル所ト解スル無キニ非サル可キモ要スルニ縣下トハ全縣ヲ指ス者トス故ニ本官ハ寧ロ原案ヲ是認ス況ヤ其語路モ亦甚タ順ナルヲヤ

○議長 第五條ニ對スル二十七番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ
起立者十二人

○議長 少數ナルヲ以テ二十七番ノ修正說ハ消滅ス第二條乃至第五

條本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十五人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

○三十七番 大給 恒 今ヤ第五條ハ既ニ決定シ將サニ第六條ニ移ラントス本官爰ニ第二讀會ニ消滅セシ原案第六條ヲ恢復スル修正說ヲ提出ス抑モ原案第六條ハ檢束上ニ於テ須要ノ者トス第二讀會ニ於テ各種ノ修正說ト共ニ消滅セシモ未タ一人ノ此條ヲ廢棄セント論スル有ラサリシハ各位ノ知ル所ナリ唯其文字ヲ完全ナラシムル爲メニ種種ノ修正ヲ試ミタルモ終ニ不幸ノ結果ヲ來セシナリ既ニ其精神ニ同意セル以上ハ決シテ廢棄ニ付ス可キニ非ス本官ハ殊ニ此條ニ「謀リ」ノ文字ヲ存スルトキハ其區域ノ廣濶ナルヲ恐ルト云ヘル

論旨ニ感服ス實ニ沖繩ハ新置ノ縣ナレハ百事實假ヲ旨トシ次第ニ精密ニ進マシムルヲ施政ノ順序ト爲ス刑法ニ據テ「謀」ノ字ノ釋義ヲ下タスハ恐ク新置ノ沖繩縣ニ對スル政策ニ非サラシ故ニ此「謀」ノ字ヲ削リテ其區域ヲ減縮ス可シト云ヘルハ實ニ吾心ヲ獲タル者トス然ルニ「謀」ノ文字ヲ削リ填スルニ「シ」ノ字ヲ以テスル修正說ニ起立ヲ表セサリシハ此ノ如クスルヤ送狀ヲ作ルモ倉庫ヨリ搬出スルモ或ハ「輸出セントシ」ノ範圍内ニ屬スル無キヲ保セサレハナリ本官ハ或ハ輸出セントシテ船積シト修正セント思考セシモ猶ホ未タ心ニ安ンセス然ラハ則チ原案ニ從ハン乎原案ハ其區域ノ泛漠ナルヲ奈何セン蓋シ適當ノ修正文字ヲ得サルニ發言スルハ定見ナキノ誹議ヲ免レサル可キモ今日ノ意見ヲ以テスレハ先ツ原案第六

條ヲ恢復シ而シテ數名ノ修正委員ヲ選定シ其報告ヲ俟テ開會センコトヲ望ム是レ敢テ明日ニ延會スルヲ須ヒス本日中直チニ事ニ從フヲ得ントス且特ニ一言ス若シ決議ニ際シ原案修正案共ニ起立者ノ少數ニシテ再ヒ白紙ヲ生スル如キハ遺憾尤モ甚キヲ以テ其決議ヲ二段ニ分チ先ツ原案第六條ヲ復スル議ヲ決シ更ニ修正委員ヲ置ク議ヲ決センコトヲ切望ス若シ然ラスシテ一齊ニ取決セハ兩議ノ間ニ於テ必ス各位ノ不滿ヲ來タス有ンコトヲ恐ルヲ以テ爲メニ議長ノ參考ニ供セントスルノミ

○二十二番 三浦安 三十七番ノ發議ハ特別ノ建議ヲ爲セルカ將タ意見ヲ開陳セルカ敢テ問フ

○三十七番 大給恒 原案第六條ヲ復スル論旨ニシテ併セテ意見ヲ陳述

セシナレハ即チ特別ノ意見ナリ

○議長 此ノ如キハ特別建議ナラン

○三十七番 大給 恒 然リ

○二十二番 三浦 安 然ラハ則チ之ヲ賛成ス抑モ第二讀會ニ於テ議論多

岐ニ涉リ終ニ其適歸ヲ得サリシニ今又本會ニ於テ其覆轍ヲ履マハ恐クハ本院ノ體裁ニ關係セン先ツ一タヒ原案ニ復シ更ニ附託委員ヲ置テ修正セシムルハ適宜ノ建議ト謂フ可シ但シ建議者ハ一タヒ原案ニ復スル決ヲ取り更ニ修正委員ヲ置ク決ヲ取ント云フモ本院果シテ此ノ如キ規則慣例アリヤ本官ハ一タヒ原案ニ復セハ更ニ委員ヲ置クヲ要セスト信ス故ニ原案ニ復スル爲メニ委員ヲ置キ其委員ノ提出スル報告案ヲ以テ本案ト定ムル者ト爲サハ可ナラン三十

七番ノ辯論ハ或ハ精密ニ涉リ爲メニ本官ヲシテ其要領ヲ聞クヲ得サラシメシ乎然レトモ議長ニシテ若シ建議者ノ說ヲ容レハ本官復タ何ソ異言ヲ插マン

○議長 三十七番ト二十二番トノ意見ハ同一ナリ必シモ決ヲ二段ニ取ラサル可ラスト云フニ非ス

出席

三十二番 鷺尾 隆聚

○三十七番 大給 恒 思フニ原案第六條ニシテ消滅ニ歸スルハ遺憾ニ堪ヘサルカ故ニ先ツ原案ニ復シテ修正委員ヲ置キ其修正報告ヲ得テ議決セント欲スルニ在リ然レトモ或ハ原案ヲ可トスル論者甚タ多クシテ修正ヲ要セスト云フニ決スルハ亦遺憾ニ堪ヘサルカ故ニ併セテ議決ノ方法ヲ陳述シテ議長ノ參考ニ供シタリ是レ蓋シ原案ノ

恢復ヲ切望スルカ爲メノミ

○二十二番三浦安 議長ノ参考ニ供スル決議ノ方法タラハ敢テ顧慮ヲ要セス修正委員ノ提出スル者ヲ本案ト爲シテ可ナラン若シ修正ヲ欲セス單ニ原案ニ復スルヲ望メル論者ハ更ニ發議スルヲ得ン何ソ本説ノ行ハレサルヲ憂ヒンヤ

○議長 三十七番ノ特別建議タル其要旨ハ原案第六條ハ素ヨリ恢復セサル可ラサル者トス但シ之ヲ恢復スルモ亦修正セサル可ラス其之ヲ修正スルニハ付託委員ヲ選定ス可ク而シテ單特ノ條文ナルヲ以テ今日ニ其報告ヲ得テ續會ヲ開ク可シト云フニ在リ故ニ此建議ニシテ議場ノ採用スル所ト爲レハ各位暫時退席シテ報告案ノ提出ヲ俟ツヲ要ス即チ三十七番ノ動議ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者二十六人

○議長 多數ナルヲ以テ三十七番ノ特別建議ニ決ス乃チ投票以テ五名ノ付託修正委員ヲ選定セン

此間投票

○議長 得票多數ヲ以テ二十二番三浦安 十三番箕作麟祥 三十七番大給恒 四十三番柴原和正 四十一番楠本正隆 ヲ付託修正委員ト爲ス其報告ヲ俟テ續會ヲ開カン暫時散會セヨ

午前第十時四十分閉場

午後零時二十五分開場

退席

六番

野村 素介

同

七番

海江田信義

同

八番

神田 孝平

○議長 午前ノ續會ヲ開キ即チ午前ノ決議ニ依リ報告案ヲ以テ問題ト爲ス

書記官 森山 茂

朗讀

第六條

出港税ヲ納メスシテ酒類ヲ他府縣へ輸出セント謀リ又ハ輸出シタル者ハ出港税金三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其酒類ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

○三十七番 大給 恒

午前ニ付託修正委員ヲ置キ原案第六條ヲ修正セシムル本官ノ建議ハ幸ニ議場ニ行ハレ本官モ委員ノ一人ニ當選シ反

覆審議シテ報告セシ修正案ハ現ニ書記官ノ朗讀セシ所ナリ昨日以來議論紛糾タル後ニ於テ本案ノ如クニ修正セシハ唯其處罰ノ目的ヲ明ニシテ被及スル區域ヲ減縮シ而シテ原案ノ意義ニ基クニ外ナラス要スルニ文理甚タ明白ナレハ復タ多辯セス

○三十五番 楫取 素彦

本官モ原案第六條ニ關シテハ實ニ了解ニ苦メリ其了解ニ苦ム所以ハ獨リ「謀リ」ノ文字ノミニ止マラス即チ原案ヲ布告セハ恰モ本官ノ了解ニ苦ム如ク行政官司法官皆共ニ了解ニ苦ミ隨テ説明ヲ政府ニ乞フノ煩煩ナルヲ信ス蓋シ原案ニ據ルトキハ處罰ノ區域甚タ明白ヲ缺クヲ以テ自ラ船積スル以前ニ涉ラサルヲ得サレハナリ故ニ本官ノ顧慮セシハ獨リ「謀リ」ノ文字ヲ改ムルノミニ止ラサリシ然ルニ今ヤ船積ヲ標的ト爲シテ修正セシ以上ハ其區

域判然ニシテ復々疑ノ容ル可キ無シ欣テ之ヲ贊成ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第七條

第四條ノ届出ヲ爲サル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十八人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ次條ニ移ル

書記官 森山茂 朗讀

第八條

主任官吏ノ検査ヲ拒ム者ハ二圓以上二拾圓以下ノ罰金ニ處ス

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十八人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決ス

書記官 森山茂 朗讀

第九條

此規則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十條

前條々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乗組人ノ所

犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○二十一番 棋村正直 第九條ニ但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニ非ストノ一句ヲ加ヘン其理由ハ刑法第七十五條第一項ハ抗拒ス可ラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サル所爲ハ其罰ヲ論セサルコトヲ言ヘリ若シ本案第十條ノ正文ニ止ムルトキハ實ニ抗拒ス可ラサル強制ニ遇ヒ其意ニ非サル所爲モ亦本案ニ據テ處罰セラルルノ不幸アラシ論者或ハ本案ニハ然ル如キ場合ナシト云フ可キモ既ニ第十條ノ明文アル以上ハ荷主船長輩ニ在テハ他ノ地方ニ向テ出港スル意思ナキモ他人ヨリ乗組人等ヲ強制シテ鹿兒島地方等ニ輸出セシメハ是レ荷主船長輩ハ其意ニ非サル強制ニ遇ヒ更ニ處罰ニ遭フ者ト謂

ハサル可ラス本官ハ那覇港ノ地理ニ暗シト雖モ本案ノ主旨ハ獨リ他縣ニ出港スル者ニ課稅スルニ在テ島内ニ於ル彼此ノ運漕ニ課稅スルニ非サル可シ然レハ則チ此ノ島港ヨリ彼ノ島港ニ運漕スルニ際シ抗拒ス可ラサル強制ニ遇ヒ性命ヲ重スル爲メニ寧ロ其強制ニ從フ無キヲ保セス故ニ前陳ノ修正ヲ提出ス賛成ヲ得テ問題ト爲ルニ至ラハ幸ヒ甚シ

○十三番 箕作麟祥 二十一番ノ動議ハ用意周到ナルカ如シ實ニ酒造稅則其他ノ行政規則ニ在テハ二十一番ノ云フ所ハ幾ント一樣ニ出ツ然ルニ本案ニハ之ヲ掲ケス但タ二十一番ノ本案第十條ヲ引テ起論セルハ稍ヤ本官ノ解セサル所トス因テ去就ヲ決スル爲メニ二十一番ニ質サン本案第十條ハ「家族雇人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乗組人

ノ所犯ニ係ル者ト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシト言フ然ルヲ二十一番ハ荷主船長ハ他縣ニ出航ス可キ意思ナキニ乗組人ノ之ヲ強制セル爲メニ罰ヲ犯スノ惡意ナキ荷主船長ヲ罰スルハ苛酷ナリト云ヘリ是レ或ハ刑法第七十七條ヲ云フニ非サル乎

○二十一番榎村正直 本官ノ旨趣ハ本案第十條ニ在ルニ非ス第十條ヲ引シハ近ク例ヲ之ニ取りシノミ即チ本案第十條ニ在テスヲ荷主船長ハ不慮ノ處罰ヲ受ルナリ若シ抗拒ス可ラサル場合ニ遇フテ已ムヲ得サルニ出タル所爲ハ不論罪ニ入ル可キニ獨リ本案ニ限り然ラサルヲ憾ムノミ蓋シ抗拒ス可ラサル強制ニ遇フ場合ハ何時ニ起發スルヤヲ知ル可ラサル者ナレハナリ

○議長 二十一番ノ動議ハ賛成者ナキヲ以テ消滅ス本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

起立者二十七人

○議長 多數ナルヲ以テ本案ニ決シ第三讀會ヲ了ル更ニ本會ヲ以テ確決會ト看做スニ同意スル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本會ヲ確決會ト看做シ例ニ從ヒ修正ノ理由ヲ具シテ上奏セン各位散會セヨ

午後零時五十分閉場

元老院會議筆記明治十七年十一月二十七日

禁傍聽

○第四百五十四號議案

地方稅規則第四條中改正ノ儀 第一第二第三讀會

○第四百五十五號議案

府縣會規則第三十條中改正ノ儀 第一第二第三讀會

議長東久世通禧

出席議員

一番 上杉 茂憲

二番 田邊 太一

六番 野村 素介

七番 海江田信義

八番 神田 孝平

九番 鍋島 幹

十二番 河田 景與

十三番 箕作 麟祥

十四番 稅所 出言篤

十五番 岩村 定高

十七番 長松 太幹

十八番 西 周

二十番 出淵 官 林 友幸

二十一番 榎村 正直

二十二番 三浦 安

二十三番 大鳥 圭介

二十四番 長岡 護美

二十五番 大久保 一翁

二十六番 本田 大親雄

二十九番 細川 潤次郎

三十番 津田 眞道

三十三番 官本 小一

三十四番 神山 郡廉

三十五番 楫取 素彦

三十九番 橋口 兼三

四十三番 柴原 和

四十四番 福原 實

內閣委員 二番 參事院議官補 水野 遵

午前第九時四十五分開場

○議長 本日ハ第四百五十四號第四百五十五號二議案ノ第一讀會ヲ開キ先ツ第四百五十四號ヨリ朗讀セシム

書記官 森山茂 朗讀

布告案

明治十三年^四第拾六號布告地方稅規則第四條一項左ノ通改正シ明治十九年度ヨリ施行ス但明治十八年度ハ明治十八年七月ヨリ翌年三月マテ九箇月ヲ以テ一周年度トス
其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算并地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取り其年二月ヲ以

○テ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

右奉 勅旨布告候事

○^外番^二番^水野 水野 本案ノ發布ヲ要スル所以ハ本年第八十九號達書ヲ以

テ會計年度ヲ改定セルニ因リ地方稅規則第四條モ之ニ準シテ改正ヲ加ヘ彼此同一ナラシムルニ在テ他別ニ理由ノ存スル無シ且是レ急施ヲ要スルヲ以テ速ニ議定センコトヲ望ム

○四十三番 柴原和 内閣委員ノ説明セル如ク本案ハ實ニ當然ノ改正ニ

係ルヲ以テ之ヲ賛成ス現行法ニハ其年二月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ府縣會ノ議決ヲ取り其年五月ヲ以テ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシト言ヘリ然ルニ本案ハ前年十月マテニ經費ノ豫算ヲ爲シ其年二月

ヲ以テ内務卿大藏卿ニ報告スルナレハ豫算ヨリ報告マテ其間五箇月ニシテ現行法ノ四箇月ナルニ比スレハ一箇月ヲ増シ府縣會ヲ開クニ餘裕多クシテ事務ノ處辨ニモ亦甚タ便宜ナリトス又現行法ニ於テハ府縣會ヲ開クハ二三月ノ交ニ在ルモ本案ヲ以テセハ十一月○二月ノ交ニ在ル可キヲ以テ恰モ農事ノ間隙ナル時ニ會フ此事ヤ獨リ會計年度ノ改正ニ關スルニ非ス即チ人民ノ素望ナレハ其便益タル甚タ大ナリ而シテ此大便益タル第四百五十五號議案ニ於ルモ亦然リ因テ之ニ可決センコトヲ望ム蓋シ本案ハ太政大臣ノ速ニ議定ヲ要スルヲ牒告セル有リ而シテ滿場異議ナシト察スルヲ以テ第一讀會ヲ畢ラハ直ニ第二第三讀會ヲ開ンコトヲ建議ス

○議長 他ニ發議ナキヲ以テ第一讀會ハ茲ニ畢リ四十三番ノ建議ア

ルヲ以テ第四百五十四五兩號共ニ引續キ第二第三讀會ヲ開クヤ否ヤノ決ヲ取ラン

○二十番 林友幸 内閣委員ニ一問ス本案ヲ發布スルヤ明治十八年ニ於テハ府縣會ハ兩回開會セサルヲ得サルカ如シ果シテ然ル乎

○番二番 水野 三月及ヒ十一月ノ兩度ニ開會セシムルナリ

○議長 引續キ第二第三讀會ヲ開クニ同意スル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ直ニ第二讀會ヲ開ク

書記官 森山茂 朗讀

布告案

明治十三年 四月 第拾六號布告地方稅規則第四條一項左ノ通改正シ明

治十九年度ヨリ施行ス但明治十八年度ハ明治十八年七月ヨリ翌年三月マテ九箇月ヲ以テ一周年度トス

○議長 其年四月ヨリ翌年三月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ前年十月迄ニ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算并地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣會ノ議決ヲ取り其年二月ヲ以テ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

右奉 勅旨布告候事

出席

二十七番

渡邊

清

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案可ト決ス第一第二讀會トモ異論ア

○議長 全會一致ナルヲ以テ第四百五十四號議案ノ第三讀會ヲ畢ル
○議長 全會一致ナルヲ以テ第四百五十五號議案ノ第一讀會ニ移ル
○議長 第四百五十五號議案ノ第一讀會ニ移ル

總員起立

書記官 森山 朗讀

布告案

明治十三年^四月^四第拾五號布告府縣會規則第三拾一條中三月ヲ十一月

ト改正シ明治十八年十一月ヨリ施行ス

右奉 勅旨布告候事

○番二番水野

外二番 逦 本案モ亦前案ト其發布ヲ要スル理由ヲ同ウス請フ亦

速ニ可決センコトヲ且陳フ本案ニ衍字アリ即チ第三十一條ノ拾ハ
十ノ衍ナリ之ヲ訂ス

○議長 發議ナキヲ以テ第一讀會ヲ畢リ前會ノ決議ニ據リ引續キ第
二第三讀會ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

布告案

明治十三年^四月第拾五號布告府縣會規則第三十一條中三月ヲ十一月
ト改正シ明治十八年十一月ヨリ施行ス
右奉 勅旨布告候事

○議長 本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案可ト決ス

○議長 第一第二讀會共ニ異議ナク經過セシヲ以テ第二讀會ノ決議
ヲ第三讀會ノ決議ト看做スヤ否ヤノ決ヲ取ラン即チ本會ノ決議ヲ
以テ第三讀會ノ決議ト看做スニ同意スル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ此ニ議了シ兩案共ニ可決ノ旨ヲ具シテ
上奏セン散會セヨ

午前第十時五分閉場

元老院會議筆記 明治十七年十二月二十四日

○第四百五十六號議案 本年第十二號布告中追加ノ儀 第一第二第三讀會

議長 東久世 通禧

出席議員

- 一番 鍋島 直彬
- 二番 楫取 素彦
- 五番 林 友幸
- 六番 籠手田 安定
- 十番 細川潤次郎
- 十一番 津田 出
- 十四番 樺村 正直

○議案ノ第一讀會ニ於テハ...

○議案ノ第二讀會ニ於テハ...

○議案ノ第三讀會ニ於テハ...

○議案ノ第四讀會ニ於テハ...

○議案ノ第五讀會ニ於テハ...

○議案ノ第六讀會ニ於テハ...

○議案ノ第七讀會ニ於テハ...

○議案ノ第八讀會ニ於テハ...

○議案ノ第九讀會ニ於テハ...

○議案ノ第十讀會ニ於テハ...

○議案ノ第十一讀會ニ於テハ...

○議案ノ第十二讀會ニ於テハ...

○議案ノ第十三讀會ニ於テハ...

○議案ノ第十四讀會ニ於テハ...

○議案ノ第十五讀會ニ於テハ...

○議案ノ第十六讀會ニ於テハ...

○議案ノ第十七讀會ニ於テハ...

○議案ノ第十八讀會ニ於テハ...

○議案ノ第十九讀會ニ於テハ...

○議案ノ第二十讀會ニ於テハ...

○議案ノ第二十一讀會ニ於テハ...

○議案ノ第二十二讀會ニ於テハ...

○議案ノ第二十三讀會ニ於テハ...

○議案ノ第二十四讀會ニ於テハ...

○議案ノ第二十五讀會ニ於テハ...

○議案ノ第二十六讀會ニ於テハ...

○議案ノ第二十七讀會ニ於テハ...

○議案ノ第二十八讀會ニ於テハ...

○議案ノ第二十九讀會ニ於テハ...

○議案ノ第三十讀會ニ於テハ...

○議案ノ第三十一讀會ニ於テハ...

○議案ノ第三十二讀會ニ於テハ...

○議案ノ第三十三讀會ニ於テハ...

○議案ノ第三十四讀會ニ於テハ...

○議案ノ第三十五讀會ニ於テハ...

○議案ノ第三十六讀會ニ於テハ...

○議案ノ第三十七讀會ニ於テハ...

○議案ノ第三十八讀會ニ於テハ...

○議案ノ第三十九讀會ニ於テハ...

○議案ノ第四十讀會ニ於テハ...

○議案ノ第四十一讀會ニ於テハ...

○議案ノ第四十二讀會ニ於テハ...

○議案ノ第四十三讀會ニ於テハ...

○議案ノ第四十四讀會ニ於テハ...

○議案ノ第四十五讀會ニ於テハ...

○議案ノ第四十六讀會ニ於テハ...

○議案ノ第四十七讀會ニ於テハ...

○議案ノ第四十八讀會ニ於テハ...

○議案ノ第四十九讀會ニ於テハ...

○議案ノ第五十讀會ニ於テハ...

十五番	稅所	篤
十七番	海江田信義	
十八番	三浦	大安
十九番	宮本	小一
二十番	柴原	大和
二十二番	長岡	護美
二十三番	河田	景與
二十四番	井田	讓
二十五番	野村	素介
二十六番	神田	孝平
二十七番	福原	實

二十八番	上杉	茂憲
二十九番	西谷	周
三十番	津田	真道
三十一番	箕作	麟祥
三十二番	長松	幹
三十三番	大鳥	圭介
三十四番	鍋島	幹
三十五番	神山	郡廉
三十六番	田邊	太一
三十八番	大久保	一翁
三十九番	伊丹	重賢

四十番 西村 貞陽

四十一番 岩村 定高

四十二番 渡邊 清

四十三番 本田 親雄

四十四番 黒田 清綱

四十五番 田中 芳男

四十八番 何 禮之

四十九番 安藤 則命

内閣委員 一番外 参事院議官 宍戸 璣

同 二番外 参事院議官補男谷 忠友

同 三番外 参事院員外議官補目賀田種太郎

午前第十時十分開場

○議長 第四百五十六號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 森山 茂 朗讀

布告案

○本年^五月第拾貳號布告中〔北海道ニ於テ納稅スヘキ水産物ヲ取獲〕ノ下〔シ又ハ製造〕ノ五字ヲ追加ス

右奉 勅旨布告候事

○外三番目賀田種太郎本年五月第十二號ヲ以テ〔北海道ニ於テ納稅スヘキ水産物ヲ取獲セントスルモノハ其地ノ管廳ヘ願出許可ヲ受クヘシ違フモノハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其物品ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴ス〕ト布告シタルニ往往無稅ノ

水産物ヲ買ヒ以テ有税ノ水産物ニ製造スル有ルヲ以テ本案ヲ發シ
テ之ヲ提轄セントスルニ在リ現ニ函館縣下ノ如キハ無税ナル烏賊
ヲ買ヒテ有税ナル鰯ヲ製造シ無税ナル海鼠ヲ買ヒテ有税ナル煎海
鼠ヲ製造スル有レトモ其ノ製造者ノ管轄廳ニ出願スル無シ若シ放
任ニ付セハ提轄ヲ爲ス能ハサラントス各位請フ本案ノ旨趣ヲ領シ
テ速ニ議定センコトヲ

○二十番 柴原和

番外三番ノ説明ハ之ヲ領ス但シ少シク答辨ヲ請ハン

トス本官ハ讀テ字ノ如ク納税スヘキ水産物ヲ取獲又ハ製造セント
スルヲ提轄スル者ト解セシニ番外三番ノ説明ニ依レハ納税セサル
水産物ヲ取獲スル者ヲモ提轄スル如シ如何ン

○番三番 目賀田太郎

納税スヘキ水産物ヲ取獲シ又ハ納税セサル水産物

ト納税スヘキ水産物トヲ問ハス有税品ニ製造スルヲ提轄スルナリ

出席

四番

楠本 正隆

○四十二番 渡邊清

二十番ノ質問ト番外三番ノ辨明トハ齟齬スル所ア

ルニ似タリ本官更ニ内閣委員ニ問ハン原案ノ如ク「シ又ハ製造」ノ
五字ヲ追加スルトキハ「納税スヘキ水産物ヲ取獲シ又ハ製造セント
スルモノ」ト言フニ在レハ納税スヘキ水産物ヲ取獲シ又ハ納税スヘ
キ水産物ヲ製造セントスル者ト言フノ意ナル可ク納税セサル水産
物ヲ有税品ニ製造スルコトハ包含セサルナラン請フ其辨明ヲ與ヘ
ンコトヲ

○番三番 目賀田太郎

初メ取獲スルニハ有税品タルト無税品タルトヲ問

ハス之ヲ有税品ニ製造スル者ヲ提轄スルナリ第十二號布告ニ依レ

ハ無税品ヲ取獲スルハ出願ヲ要セサリシモ甲者無税品ヲ取獲シ乙者之ヲ有税品ニ製造スルモ第十二號布告ヲ以テ提轄スル能ハス因テ本案ヲ發シテ其取獲スルニハ有税品タルト無税品タルトヲ問ハス之ヲ製造シテ有税品タル者ヲ製造スルヲ提轄セントスルノミ

○二十番柴原和 領會ス文字ノ不足ナルハ第二讀會ニ修正ス可キモ原案ノ旨趣明瞭ナラサルヲ以テ更ニ内閣委員ニ問フ第十二號布告ニハ「二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ云云」ノコトヲ掲ケリ然ルニ烏賊ヲ取獲スルハ無税ナレトモ之ヲ鰯ニ製造スルトキハ有税ナリト云フ此場合ニ於テ鰯製造者ノ出願シテ許可ヲ受ケサルトキハ二圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其物品ヲ沒收スル乎鰯製造者ニシテ若シ不服ヲ唱フルトキハ判官或ハ其處分ニ苦マン

○外三番目賀田種太郎 取獲ノ際ニ無税品ナルモ之ヲ製造シテ有税品ト爲セルトキ其有税品ノ製造ヲ出願セサル者ヲ處罰スルハ論ヲ待タス

○議長 他ニ質問ヲ發スル無シハ此ニ第一讀會ヲ畢ル

○外二番男谷忠友 引續キ第二讀會ヲ開ンコトヲ請求ス

○議長 内閣委員ノ請求ニ應ス可シト思惟スル者ハ起立セヨ

起立者二十九人

○議長 多數ナルヲ以テ引續キ第二讀會ヲ開ク

書記官森山茂 朗讀

布告案

○本年五月第拾貳號布告中〔北海道ニ於テ納税スヘキ水産物ヲ取獲〕ノ下〔シ又ハ製造〕ノ五字ヲ追加ス

右奉 勅旨布告候事

○三十一番麟祥 本官ハ第一讀會ニハ沈黙シタレトモ本案ハ意味頗ル深奥ニシテ容易ニ會得ス可ラス其眼光ノ紙背ニ透ル人ト雖モ内閣委員ノ辨明シタル如クニ解スル能ハス本會ニ在テハ各官ヨリ明備ナル修正説ヲ提出スル有ル可シト信スレトモ到底幾多ノ文字ヲ加ヘサレハ分明ナラサルニ因リ種種ノ修正説疊出シテ或ハ紛雜ヲ生スルニ至ラン故ニ議長席ニ於テ全部付託修正委員三五名ヲ選定シテ之ニ全部ノ修正ヲ付託シ其報告ヲ待テ續會ヲ開カレンコトヲ建議ス

○二十番柴原和 三十一番ノ建議ヲ賛成ス本官ハ原案ヲ讀テ字ノ如クニ解セシモ内閣委員ノ説明セル如クニ解スル能ハス幸ニ三十一番

○ノ建議ノ如ク修正委員ヲ選定センコトヲ望ム修正委員ニ付託スルモ敢テ日子ヲ要セサル可ク暫時ニシテ報告ヲ得ントス

○十一番津田出 三十一番ノ建議ヲ賛成ス

○議長 三十一番ノ全部付託修正委員ヲ選定スル建議ノ決ヲ取ン之ニ同意スル者ハ起立セヨ

起立者三十人

○議長 多數ナルヲ以テ全部付託修正委員ニ付託スルニ決シ十一番津田出 十八番三浦安 二十番柴原和 三十一番麟祥 四十番西村貞陽ヲ以テ全部付託修正委員ト爲ス他ニ議定案ヲ下付セラル可キ内示ヲ得タレハ務テ速ニ修正報告センコトヲ望ム其報告ヲ待テ續會ヲ開カン散會セ

午前第十時五十分閉場

午前第十一時三十五分開場

退席 二十五番 税所 篤

同 十七番 海江田信義

同 二十五番 野村 素介

同 三十九番 伊丹 重賢

同 四十三番 本田 親雄

○議長 續會ヲ開ク全部付託修正委員ヨリ報告案ヲ提出セリ原案ト
修正案ト其孰レヲ以テ議題ト爲ス可キヤノ決ヲ取ラン

○三十一番 笑作 麟祥 本官等過刻全部付託修正委員ノ任ヲ受ケ反覆審議

○シ内閣委員ニモ協議シテ「シ又ハ製造」ノ五字「ヲ」シ又ハ水産物ヲ
有。税。品。ニ。製。造。ノ。十。三。字。ニ。修。正。セ。リ。斯。ノ。如。ク。セ。ハ。原。案。ノ。意。義。ヲ。明
晰ナラシムルコトヲ得ント信スルナリ

○議長 全部付託修正委員ノ報告案ヲ以テ本案ト爲スニ同意スル者
ハ起立セヨ

起立者三十一人

○議長 多數ナルニ因リ全部付託修正委員ノ報告案ヲ以テ本案ト爲
ス

書記官 森山 朗讀

布告案

本年五月第拾貳號布告中「北海道ニ於テ納税スヘキ水産物ヲ取獲」ノ

水産物ヲ有税品ニ十三
下「シ又ハ製造」ノ五字ヲ追加ス

右奉 勅旨布告候事

○四十二番渡邊清 第一讀會ニ於テ質疑セシ如ク下付原案ハ其意義明

瞭ナラサリシモ全部付託修正委員ノ報告ヲ觀ルニ大ニ原案ノ意義
ヲ明晰ナラシムルニ足レリ因テ之ヲ賛成ス

○議長 他ニ發議ナクハ決ヲ取シ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ此ニ第二讀會ヲ畢ル

○外番二番男谷忠友 引續キ第三讀會ヲ開シコトヲ請求ス

○議長 內閣委員ノ請求ニ應ス可シト思惟スル者ハ起立セヨ

起立者三十二人

○議長 多數ナルヲ以テ引續キ第三讀會ヲ開ク

書記官森山茂 朗讀

布告案

本年五第拾貳號布告中「北海道ニ於テ納税スヘキ水産物ヲ取獲」ノ

下「シ又ハ製造」ノ五字ヲ追加ス

右奉 勅旨布告候事

○議長 發議ナクハ決ヲ取シ本案ヲ可トスル者ハ起立セヨ

總員起立

○議長 全會一致ナルヲ以テ本案ニ決シ此ニ第三讀會ヲ畢ル修正ノ

理由ヲ具シ例ニ遵ヒ上奏セン散會セヨ

午前第十一時四十分閉場

○第四百五十七號

- 十四番 榎村 正直
- 十五番 稅所 篤
- 十七番 海江田 信義
- 十八番 三浦田 安
- 十九番 宮本 小一
- 二十番 柴原 和
- 二十二番 長岡 護美
- 二十三番 河田 景與
- 二十四番 井田 讓
- 二十六番 神田 孝平
- 二十七番 福原 實

○第四百五十八號

- 二十八番 上杉 茂憲
- 二十九番 西田 周
- 三十番 津田 眞道
- 三十一番 箕作 麟祥
- 三十二番 長松 幹
- 三十三番 大鳥 圭介
- 三十四番 鍋島 幹
- 三十五番 神山 郡廉
- 三十七番 橋口 兼三
- 三十八番 大久保 一翁
- 三十九番 伊丹 重賢

四十番 西村 貞陽

四十二番 渡邊 清

四十三番 本田 親雄

四十四番 黒田 清綱

四十五番 田中 芳男

四十六番 中島 錫胤

四十八番 何 禮之

四十九番 安藤 則命

内閣委員 一番外 參事院議官 安場 保和

同 二番外 參事院議官 補郷田 兼徳

午前第九時五十五分開場

○議長 第四百五十七號議案ノ第一讀會ヲ開ク

書記官 森山 朗讀

布告案

内國郵便往復葉書及萬國郵便聯合往復葉書ヲ發行シ明治十五年二月
第五拾九號布告郵便條例中左ノ通改正追加シ明治十八年一月一

日ヨリ施行ス

第一條中

二 郵便葉書ノ下「及往復葉書」ノ五字ヲ加フ

第十七條中

第二種郵便物ノ下一葉一錢トアルヲ〔葉書一葉一錢ト改ム
往復葉書一葉二錢〕

第二百三條中

二 郵便葉書ノ下「及往復葉書」ノ五字ヲ加フ

右ノ外各條中葉書トアル下ニ往復葉書ノ四字ヲ加フ

右奉 勅旨布告候事

○番一 安場 保和 本案ノ趣旨ハ敢テ辨説ヲ待スシテ明了ナラン抑モ郵便法ヲ創設セシ以來大ニ内外ニ便利ヲ與ヘ其事業歲月ヲ逐テ進歩

ス今又一層ノ便利ヲ謀リテ往復葉書ヲ作ラントス本案ノ理由僅ニ

此ニ止マルヲ以テ各位速ニ議決上奏センコトヲ望ム蓋シ現行郵便

條例ヲ改正スルノ當然ナルニ似タレトモ現行郵便條例ハ時時改正

セサル主義ニ成ルヲ以テ特ニ本案ヲ發セントスルナリ

○四十二番 渡邊 清 簡單ノ法案ナレトモ却テ或ハ大簡ニ失スル無キヲ

得ンヤ抑モ葉書ハ今日ニ實行スル者ナルモ今又往復葉書ヲ發行セ

ン爲メニ本案ヲ要スルナラン然ルニ往復葉書ノ體裁効用及ヒ其取

扱ノ順叙ハ之ヲ如何スルヤ第十七條中「云云ト言ヘル有ルヲ觀レ

ハ現行ノ一葉一錢ノ葉書ト種類ヲ同ウセサルヲ推ス可シ又往復ノ

間即チ發信者ト答信者トノ間ニ於ケル順叙ヲ示ササル可ラサラン

例セハ一定ノ順叙ニ違背スルトキハ其葉書ハ二錢ノ効用ヲ失ヒ一

錢ノ効用ヲ留ムル等ノコト無キヲ期セス事若シ此ニ至レハ人民ノ

財産ニ影響セントス是等ノ順叙ハ主務卿ノ布達ニ讓ラントスル歟

若シ然リト云ハハ其旨趣ヲ本案ニ掲ケサル可ラス且又郵便葉書ナ

ル文字ハ現行郵便條例中數多ノ條項ニ散見セル者ナルニ獨リ第一

條ト第二三條トニ「及往復葉書」ノ五字ヲ加フルノミナルハ何ソ

ヤ番外ノ明辨ヲ乞フ

○番二番兼德 往復葉書ヲ創製スル爲メニ其取扱順序ヲ調査セシニ
 是レ布告ヲ以テ定ム可キ者ニ非ス即チ驛遞總官ノ告示スル制規ニ
 讓ル可ク而シテ其順叙ハ記シテ此ニ在リ一覽ニ供セン又其郵便葉
 書ノ文字ヲ現行郵便條例中獨リ第一條ト第二三條トヲ舉タルハ
 其要點ヲ摘テ以テ煩ヲ避ケタルナリ往復葉書ノ樣本モ携ヘテ此ニ
 在リ是亦一覽ニ供セン萬國葉書郵便ハ二種アリ即チ其一ハ一枚三
 錢ニシテ往復ヲ六錢ト爲シ其一ハ一枚二錢ニシテ往復ヲ四錢ト爲
 ス此第二種ノ葉書ハ上海ト加拿太ト通施スルニ限ル蓋シ此ノ如ク
 低價ナルハ彼此郵便局ノ相互ニ條約シテ豫メ郵便船ノ費用ヲ辨給
 スル有ルニ由リ而シテ萬國郵便葉書ノ六錢ナルハ豫メ郵便船ノ費

用ヲ辨給スル無キニ由ルナリ

○四十二番渡邊

樣本ヲ一見スルニ果シテ本官ノ疑ヲ懷ケル如ク一

紙ニシテ往復ヲ兼ヌル者ナリ因テ猶ホ質問セン内國往復葉書ト萬
 國往復葉書トヲ發行スルニ一布告ヲ以テシ即チ内國ニ施用スル者
 ヲ云フテ萬國ニ施用スル者ヲ云ハサルハ何ソヤ萬國ニ施用スル者
 ニハ一枚二錢三錢即チ往復四錢六錢ノ二種アリ然ルニ之ヲ本案ニ
 掲ケサルハ何ソヤ答信者ハ發信葉書ノ一片ヲ截去シテ答信ヲ爲ス
 ヤ將タ之ヲ截去セハ其効力ヲ失スルヤ其他犯則ノ裁制等ハ如何ン
 ○番二番兼德 使用方法ハ往信ノ部分ニハ發信用ノ文字ヲ記シ復信
 ノ部分ニハ返信用ノ文字ヲ記セリ發信者先ツ此葉書ヲ發スレハ答
 信者ハ往信ノ部分ナル一片ヲ截去シテ唯其復信ノ部分ナル一片ヲ